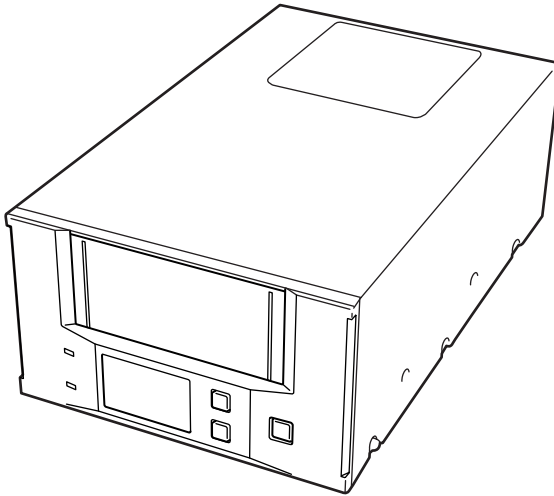


# N8151-39 内蔵DAT集合型

---

## 取扱説明書



製品をご使用になる前に必ず本書をお読みください。  
本書は熟読の上、大切に保管してください。

## 商標について

Microsoftとそのロゴ、Windows、およびWindows NTは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Digital Data Storageはソニー株式会社の商標です。

記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

Windows NT 4.0はMicrosoft® Windows NT® Server network operating system version 4.0、およびMicrosoft® Windows NT® Workstation network operating system version 4.0の略称です。

Windows 2000は、Microsoft® Windows® 2000 Professional、Microsoft® Windows® 2000 Server、およびMicrosoft® Windows® 2000 Advanced Serverの略称です。

サンプルアプリケーションで使用している名称は、すべて架空のもので、実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。

## 海外でのご使用について

この製品は、日本国内での使用を前提としているため、海外各国での安全規格等の適用を受けておりません。したがって、この製品を輸出した場合に当該国での輸入通関および使用に対し罰金、事故による補償等の問題が発生することがあっても、弊社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。

## ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) NECの許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については(4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

この取扱説明書は、必要とすきすぐに参照できるよう、お手元に置いておくようにしてください。「使用上のご注意」を必ずお読みください。

## **使用上のご注意** ~必ずお読みください~

本製品を安全に正しくご使用になるために必要な情報が記載されています。

### 安全にかかわる表示について

本書にはどこが危険か、どのような危険に遭うのか、どうすれば危険を避けられるかなどについて説明されています。

本書、および警告ラベルでは危険の程度を表す言葉として、「警告」と「注意」という用語を使用しています。それぞれの用語は次のような意味を持つものとして定義されます。



**警告**







人が死亡する、または重傷を負うおそれがあることを示します。





**注意**

火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあることを示します。

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味を持つものとして定義されています。

	<b>注意の喚起</b>	この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。	(例)  (感電注意)
	<b>行為の禁止</b>	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。	(例)  (分解禁止)
	<b>行為の強制</b>	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。	(例)  (プラグを抜け)

## (本書での表示例)




注意を促す記号	危険に対する注意の内容	危険の程度を表す用語
		<b>注意</b>
	<b>電源がONのまま取り付け・取り外しをしない</b> 本体装置への取り付け・取り外しの際や、周辺機器との接続の際は必ず主電源に接続している電源コードをACコンセントから抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま取り付け・取り外しや接続をすると感電をするおそれがあります。	

## 本書および警告ラベルで使用する記号とその内容


### 注意の喚起

	感電のおそれがあることを示します。		発煙または発火のおそれがあることを示します。
	指などがはさまれるおそれがあることを示します。		特定しない一般的な注意・警告を示します。

### 行為の禁止

	特定しない一般的な禁止を示します。		本製品を分解・修理・改造しないでください。感電や火災のおそれがあります。
	本製品の電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電のおそれがあります。		

### 行為の強制

	特定しない一般的な使用者の行為を指示します。説明に従った操作をしてください。
--	--

# 安全上のご注意

本製品を安全にお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んでご理解し、安全にご活用ください。記号の説明については巻頭の『安全にかかわる表示について』の説明を参照してください。

## 全般的な注意事項



### 警告



#### 人命に関わる業務や高度な信頼性を必要とする業務には使用しない

本製品は、医療機器・原子力設備や機器、航空宇宙機器・輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みやこれらの機器の制御を目的とした使用は意図されておりません。これらの設備や機器、制御システムなどに本製品を使用した結果、人身事故、財産被害などが生じても弊社はいかなる責任も負いかねます。



#### 煙や異臭、異音が生じたまま使用しない

万一、煙、異臭、異音などが生じた場合は、ただちに本体装置の電源をOFFにして電源コードをACコンセントから抜き、本製品のDCケーブルを抜いてください。その後、お買い求めの販売店または保守サービス会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災の原因となります。



#### 針金や金属片を差し込まない

通気孔やカートリッジ挿入口から金属片や針金などの異物を差し込まないでください。感電の危険があります。



### 注意



#### 海外で使用しない

本製品は、日本国内専用の製品です。海外では使用できません。この製品を海外で使用すると火災や感電の原因となります。



#### 製品内に水や異物を入れない

製品内に水などの液体、ピンやクリップなどの異物を入れないでください。火災や感電、故障の原因となります。もし入ってしまったときは、すぐに本体装置の電源をOFFにして電源コードをACコンセントから抜き、本製品のDCケーブルを抜いてください。分解しないで販売店または保守サービス会社に連絡してください。

## 電源・電源コードに関する注意事項



### ぬれた手でDCケーブルを持たない

ぬれた手でDCケーブルの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。



### 電源がONのまま取り付け・取り外しをしない

本体装置への取り付け・取り外しの際や、周辺機器との接続の際は必ず主電源に接続している電源コードをACコンセントから抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま取り付け・取り外しや接続をすると感電をするおそれがあります。



### 中途半端に差し込まない

DCケーブルはしっかりと差し込んでください。中途半端に差し込むと接触不良のため発熱し、火災の原因となることがあります。また差し込み部にほこりがたまり、水滴などが付くと発熱し、火災の原因となるおそれがあります。



### 指定以外の接続をしない

DCケーブルの接続や配線は本書の説明に従って正しく行ってください。指定以外の接続や配線は火災や感電の原因となるおそれがあります。



### 破損したケーブルを使用しない

ケーブルを接続する前にコネクタが破損していたり、コネクタピンが曲がっていたり、汚れたりしていないことを確認してください。破損や曲がっているコネクタおよび汚れたコネクタを使用するとショートにより火災を引き起こすおそれがあります。



### 指定以外のケーブルを使用しない

本体装置と接続するケーブルは弊社指定のものを使用し、接続先をよく確認してください。指定以外のケーブルを使用したり、指示とは異なる接続のまま使用したりすると火災を引き起こすおそれがあります。

 **注意**



**通気孔をふさがない**

本製品の前面にある通気孔をふさがないでください。内部の温度が上昇し、誤動作の原因となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。



**プラグを差し込んだままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない**

インタフェースケーブルの取り付け／取り外しは本体装置の電源コードをコンセントから抜いて行ってください。たとえ電源をOFFにしても電源コードを接続したままケーブルやコネクタに触ると感電したり、ショートによる火災を起こしたりすることがあります。



**指定以外のインタフェースケーブルを使用しない**

インタフェースケーブルは、NECが指定するものを使用し、接続する製品やコネクタを確認した上で接続してください。指定以外のケーブルを使用したり、接続先を誤ったりすると、ショートにより火災を起こすことがあります。

また、インタフェースケーブルの取り扱いや接続について次の注意をお守りください。

- ケーブルを踏まない。
- ケーブルの上にものを載せない。
- ケーブルの接続がゆるんだまま使用しない。
- 破損したケーブルを使用しない。
- 破損したケーブルコネクタを使用しない。
- ネジ止めなどのロックを確実に行ってください。



**腐食性ガスの存在する環境で使用または保管しない**

腐食性ガス(二酸化硫黄、硫化水素、二酸化窒素、塩素、アンモニア、オゾンなど)の存在する環境に設置し、使用しないでください。また、ほこりや空気中に腐食を促進する成分(塩化ナトリウムや硫黄など)や導電性の金属などが含まれている環境へも設置しないでください。製品内部のプリント板が腐食し、故障および発煙・発火の原因となるおそれがあります。

もしご使用の環境で上記の疑いがある場合は、販売店または保守サービス会社にご相談ください。

## お手入れに関する注意事項



### 自分で分解・修理・改造はしない



本製品の分解や、修理・改造は絶対にしないでください。製品が正常に動作しなくなるばかりでなく、感電や火災の危険があります。



### プラグを差し込んだまま取り扱わない

お手入れは、本体装置の電源をOFFにして、電源コードをACコンセントから抜き、本製品のDCケーブルを抜いてください。たとえ電源をOFFにしても、電源コードを接続したまま製品内の部品に触ると感電するおそれがあります。



### 中途半端に取り付けない



DCケーブルやインタフェースケーブルは確実に取り付けてください。中途半端に取り付けると接触不良を起こし、発煙や発火の原因となるおそれがあります。



## 運用中の注意事項

### 注意



#### カートリッジ挿入口に手を入れない

カートリッジ挿入口に手を入れないでください。手を挟まれたり、巻き込まれたりしてけがをするおそれがあります。



#### 雷がなったら触らない

雷が鳴りだしたら、DCケーブルに触れないでください。感電の原因となります。



#### ペットを近づけない

本製品にペットなどの生き物を近づけないでください。排泄物や体毛が製品内部に入って火災や感電の原因となります。



#### 近くで携帯電話やPHS、ポケットベルを使わない

本製品のそばでは携帯電話やPHS、ポケットベルの電源をOFFにしておいてください。電波による誤動作の原因となります。

# 正しく動作させるために

本製品を正しく動作させるために、次の点について注意してください。  
DDSデータカートリッジの取り扱いに関する注意事項については、「DDSデータカートリッジについて」を参照してください。

## 本体について

- 本製品のSCSI IDとその他のSCSI機器のSCSI IDが重複しないように設定してください。  
→ 誤動作の原因となります。
- 本製品前面にあるBUSY LEDが点灯、または点滅しているときに本体装置の電源をOFFにしないでください。  
→ 故障、およびバックアップデータの破損の原因となります。
- 本製品を直射日光の当たる場所に保管しないでください。  
→ 正常に動作しなくなるおそれがあります。
- 本製品を腐食性ガスの発生する場所、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所に保管しないでください。  
→ 部品が変形したり傷んだりして正常に動作しなくなるおそれがあります。
- 本製品を強い振動の発生する場所に保管しないでください。  
→ 故障の原因となります。
- 本製品の上にものを置いた状態で使用したり、保管したりしないでください。  
→ 故障の原因となります。
- 本製品を急激に温度が変化する場所に保管しないでください。  
→ 故障の原因となります。
- 本製品にセットするデータカートリッジには、弊社製の「4mmデータカートリッジ(型番: EF-2422(150m)、EF-2417(125m)、EF-2409(120m)または、EF-2407\*(90m)」を使用してください。  
\* EF-2407については、読み取り(リード)のみ保証しております。  
→ 弊社製以外のデータカートリッジを使用するとリード/ライトエラーを起こすことがあります。
- 本製品のクリーニングには、付属のクリーニングカートリッジもしくは、弊社製の「4mmクリーニングカートリッジ(型番: EF-3237CN)」を使用してください。  
→ 弊社製以外のクリーニングカートリッジを使用すると故障の原因となることがあります。
- カートリッジ、マガジンを入れたままでの移動はやめてください。  
→ 衝撃が加わったとき、製品やカートリッジを傷める原因となります。

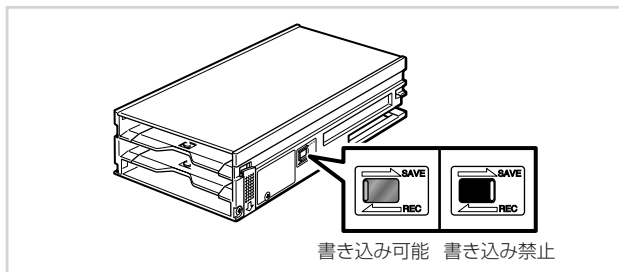
- バックアップ／リストア後は、カートリッジをマガジンに戻してください。  
→ カートリッジの寿命が短くなったり、誤動作の原因となるおそれがあります。
- カートリッジ、マガジンが本製品の挿入口から飛び出している状態で長期間放置しないでください。  
→ カートリッジの寿命が短くなったり、本製品の故障の原因となるおそれがあります。

---

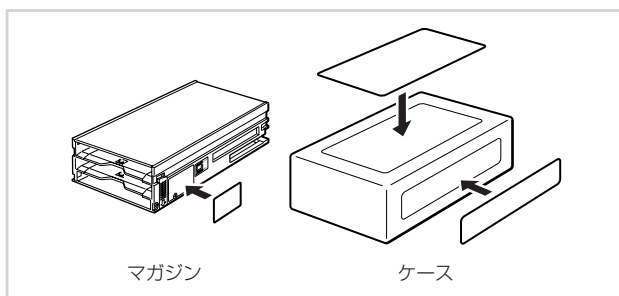
## マガジンについて

- マガジンの挿入口からカートリッジが飛び出している状態でマガジンを本製品に挿入しないでください。  
→ 故障や誤動作の原因となります。
- マガジンをホコリやチリの多い場所、直射日光の当たる場所、湿気が多い場所に保管しないでください。  
→ マガジンにセットしたデータカートリッジ内のデータを破壊するおそれがあります。
- マガジンを急激に温度が変化する場所に保管しないでください。  
→ マガジンにセットしたデータカートリッジ内のデータを破壊するおそれがあります。
- マガジンを強い振動の発生する場所に保管しないでください。  
→ マガジンの破損およびマガジンにセットしたデータカートリッジ内のデータを破壊するおそれがあります。
- マガジンを腐食性ガスの発生する場所、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所に保管しないでください。  
→ 部品が変形したり傷んだりして正常に動作しなくなるおそれがあります。また、マガジンにセットしたデータカートリッジ内のデータを破壊するおそれがあります。
- マガジンは専用のケースに入れて保管してください。  
→ マガジンを破壊するおそれがあります。
- マガジンにデータカートリッジを挿入したまま輸送・保管をしないでください。  
→ 故障の原因となることがあります。
- マガジンの上にものを置いた状態で保管しないでください。  
→ マガジンにセットしたデータカートリッジ内のデータを破壊するおそれがあります。

- マガジンのライトプロテクトプラグを書き込み禁止に設定すると、マガジンに挿入されている全てのデータカートリッジの内容が保護されます(データカートリッジのライトプロテクトプラグが書き込み可能になっていても、マガジンのライトプロテクトプラグが書き込み禁止になっていれば、データの書き込みはされません)。



- マガジンのセットしているデータカートリッジの中身を認識できるようにするために、マガジンにラベルを貼っておくことをお勧めします。



- マガジンは、本製品専用のものをお使いください。
  - 弊社製以外のマガジンを使用するとリード/ライトエラーを起こすばかりでなく、データの破壊や本製品、マガジンの故障の原因となることがあります。
  - マガジンは、付属されているもの以外に、下記のものが用紙されています。ご購入の際は、お買い求めの販売店に連絡してください。

型番	名称
EF-3244M	DDSマガジン(8巻)

# その他

## 第三者への譲渡について

本製品または本製品に添付されているものを第三者に譲渡(または売却)するときは、次の注意を守ってください。

### ●本製品本体について

本製品を第三者へ譲渡(または売却)する場合は、本書を一緒にお渡しください。

### ●その他の付属品について

その他の付属品もセットアップするときなどに必要となりますので、一緒にお渡しください。

## — 重要

テープ内のデータについて

使用していたテープに保存されている大切なデータ(例えば経営情報や企業の経理情報など)が第三者へ漏洩することのないように、お客様の責任において確実に処分しておいてください。

このようなトラブルを回避するために使用しているバックアップソフトでデータを完全消去し、確実にデータを処分することを強くおすすめします。データの消去についての詳細はバックアップソフトの取扱説明書をご参照ください。

なお、データの処分をしないまま譲渡(または売却)し、大切なデータが漏洩された場合、その責任は負いかねます。

### ●添付ソフトウェアについて

本製品に添付のソフトウェアを第三者に譲渡(売却)する場合には、以下の条件を満たす必要があります。

添付されているすべてのものを譲渡し、譲渡した側は一切の複製物を保持しないこと。各ソフトウェアに添付されている「ソフトウェアのご使用条件」の譲渡、移転に関する条件を満たすこと。

## 消耗品・製品の廃棄について

本製品、およびカートリッジの廃棄については各自治体の廃棄ルールに従ってください。詳しくは、各自治体へお問い合わせください。

## 製品寿命について

本製品の製品寿命は5年です。

## 保証について

本製品には『保証書』が添付されています。『保証書』は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容を確認のうえ、大切に保管してください。保証期間中に故障が発生した場合は、『保証書』の記載内容にもとづき無料修理いたします。詳しくは『保証書』をご覧ください。

保証期間後の修理についてはお買い求めの販売店、最寄りのNECまたはNECの保守サービス会社に連絡してください。

本製品に対し保守契約を結ばれたお客様へ

本製品の保守停止時期は、製造打ち切り後5年になります。

# 本書について

本書は、内蔵DAT集合型を正しくセットアップし、使用できるようにするための手引きです。内蔵DAT集合型のセットアップを行う場合や日常使用する上で、わからないことや具合の悪いことが起きたときにご利用ください。

本書は、内蔵DAT集合型を安全に、正しくお使いになるための事柄(セットアップや日常の取り扱いおよび保守)と内蔵DAT集合型で利用できるカートリッジ「DDSデータカートリッジ」を正しくお使いになるための事柄(取り扱い方法や保管方法)の2つの章から構成されています。

## はじめて取り扱うときの読み方



本製品を梱包箱から取り出して、はじめて取り扱うときは次の順序で本書を参照して、セットアップをしてください。

1. 箱の中身を確認する ..... 箱の中身について(→xviiページ)
2. 取り扱う上での注意事項を覚える ..... 使用上のご注意(→iiiページ)
3. 内蔵DAT集合型の部品の名前を覚える . 各部の名称と機能(→2~3ページ)
4. 取り付け前の設定をする ..... セットアップ(→4~7ページ)
5. 本体装置に取り付ける ..... セットアップ(→7~10ページ)
6. カートリッジの取り扱い方法を覚える .. DDSデータカートリッジ(EF-2422、EF-2417、EF-2409、EF-2407)について(→28ページ)
7. カートリッジをセットする ..... 取り扱い(→11~17ページ)
8. 液晶ディスプレイやLEDの表示を確認する ..... 液晶ディスプレイ(→17ページ)  
LED表示(→19ページ)
9. 内蔵DAT集合型の設定を変更する ..... 設定の変更(→20~25ページ)
10. 内蔵DAT集合型をクリーニングする ..... クリーニング(→26~27ページ)

データの保存のしかたやデータの保存形式などの設定については、ソフトウェアに添付の説明書を参照してください。

## 本文中の記号について

本文中では次の2種類の記号を使用しています。それぞれの意味を示します(安全にかかわる表示については巻頭をご覧ください)。

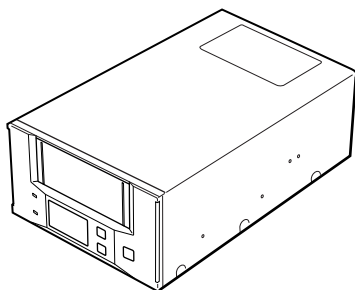
 重要	製品を取り扱う上で守らなければならない事柄や特に注意をすべき点を示します。
 ヒント	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。



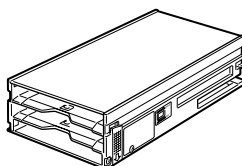
## 箱の中身について

内蔵DAT集合型の梱包箱の中には、内蔵DAT集合型本体以外にいろいろな付属品が入っています。下図を参照してすべてがそろっていることを確認し、それぞれ点検してください。万一足りないものや損傷しているものがある場合は、販売店に連絡してください。

内蔵DAT集合型



マガジン



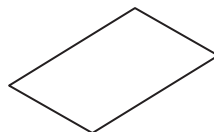
クリーニングカートリッジ



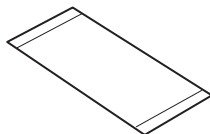
ネジ  
(4本、M3/長さ 6mm)



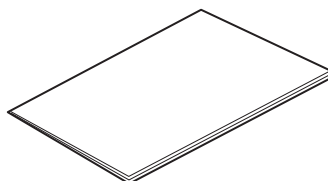
DAT装置 取り扱いについて



保証書



取扱説明書(本書)



### 重要

- 梱包箱や箱の中に入っていた固定用部材は、本製品を取り外して輸送する際に必要となります。大切に保管しておいてください。
- 添付の保証書はアフターサービスを受けるときに必要となります。大切に保管しておいてください。

# 目次

## 使用上のご注意 ～必ずお読みください～

商標について .....	ii
安全にかかわる表示について .....	iii
本書および警告ラベルで使用する記号と その内容 .....	iv
安全上のご注意 .....	v
正しく動作させるために .....	x
本体について .....	x
マガジンについて .....	xi
その他 .....	xiii
第三者への譲渡について .....	xiii
消耗品・製品の廃棄について .....	xiii
製品寿命について .....	xiii
保証について .....	xiv
本書について .....	xv
はじめて取り扱うときの読み方 .....	xv
本文中の記号について .....	xvi
箱の中身について .....	xvii

## 内蔵DAT集合型について

使用できるカートリッジ .....	1
各部の名称と機能 .....	2
製品前面 .....	2
製品背面 .....	3
製品底面 .....	3
マガジン .....	3
セットアップ .....	4
内蔵DAT集合型の設定 ～ジャンパピンを使った設定～ .....	4
内蔵DAT集合型の設定 ～DIPスイッチを使った設定～ .....	6
本体装置への取り付け .....	7
バックアップソフト使用のご注意 .....	10

## 内蔵DAT集合型について (続き)

取り扱い .....	11
カートリッジのセット .....	11
カートリッジの取り出し .....	13
マガジンのセット .....	15
カートリッジの選択 .....	16
マガジンの取り出し .....	17
データのリード/ライト .....	17
液晶ディスプレイ .....	17
LED表示 .....	19
設定の変更 .....	20
メニュー画面への切替方法と操作方法 .....	20
Version ～設定状態の表示～ .....	21
Auto Load ～Auto Loadの設定～ .....	21
Unload ～Unloadの設定～ .....	22
Contrast ～明るさの調整～ .....	22
Orientation ～表示の向きの設定～ .....	23
DR Mode ～DR Mode の設定～ .....	24
Language ～表示言語の設定～ .....	25
クリーニング .....	26
リード/ライトヘッドのクリーニング .....	26
本体のクリーニング .....	27

## DDSデータカートリッジ (EF-2422、EF-2417、 EF-2409、EF-2407)に ついて

データカートリッジの各部の名称 .....	28
使用・保管・運搬条件 .....	29
ラベル .....	29
ラベル貼り付け位置 .....	29
ラベルへの記入上の注意事項 .....	30
ライトプロテクト .....	30
取り扱い上の注意事項 .....	31
使用上のご注意 .....	31
一般的注意事項 .....	32
使用禁止基準 .....	32
寿命 .....	33
重要なデータの保存について .....	33
データの3世代管理について .....	34
データカートリッジの保管について .....	34
バックアップと惨事復旧手順の制定 .....	34

仕 様.....	35
消耗品.....	36
エラーメッセージ一覧 .....	37
ローダーエラーコード表 .....	37
ドライブエラーコード表 .....	40
メディアエラーコード表 .....	42
運用状況お客様記入シート .....	44
トラブルシューティング チェックリスト .....	45

# 内蔵DAT集合型について

本製品のセットアップから取り付け、日常の取り扱い方法について説明します。

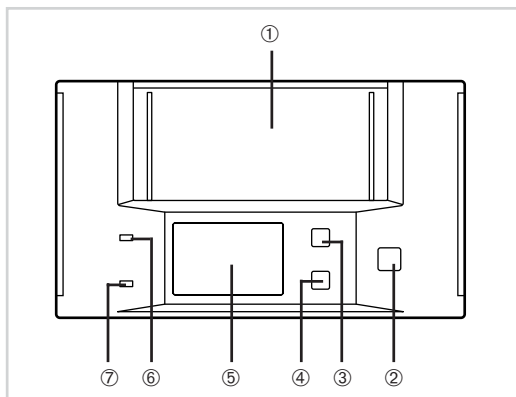
## 使用できるカートリッジ

本製品には、弊社製DDSデータカートリッジ(EF-2422、EF-2417、EF-2409、EF-2407)をご使用ください。(EF-2407については、読み取り(リード)のみ保証しております。)弊社製以外のデータカートリッジを使用するとリード/ライトエラーの原因となる場合があります。

# 各部の名称と機能

本製品、およびマガジンの各部の名称と機能について説明します。

## 製品前面



### ① マガジン挿入口

マガジンをセットするスロット(→15ページ)。

### ② EJECTボタン

マガジンを本製品から取り出すときに押す(→17ページ)。

### ③ SELECTボタン

マガジンに搭載されている8巻のDDSデータカートリッジの中からどのDDSデータカートリッジを使用するかを選択するときに押す(→16ページ)。

液晶ディスプレイを使ったメニューを操作するときにも使用する(→20ページ)。

### ④ ENTERボタン

SELECTボタンで選択したDDSデータカートリッジを本製品内のリード/ライトドライブにセットするときに押す(→16ページ)。

液晶ディスプレイを使ったメニューを操作するときにも使用する(→20ページ)。

### ⑤ 液晶ディスプレイ

本製品や搭載しているDDSデータカートリッジの状態を示すインジケータ(→17ページ)。

液晶ディスプレイを使ったメニューを操作するときにも使用する(→20ページ)。

本製品にエラーが起きたときはエラーメッセージを表示する(→37ページ)。

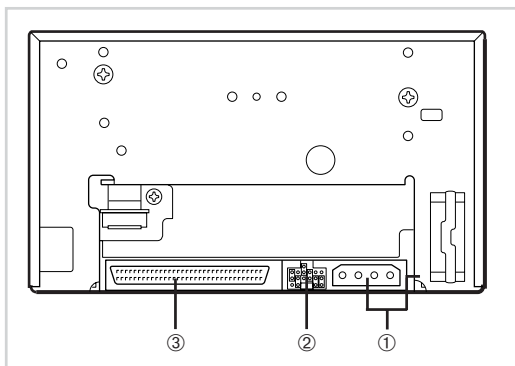
### ⑥ BUSY LED

データの通信状態を示すLED(→19ページ)。

### ⑦ TAPE LED

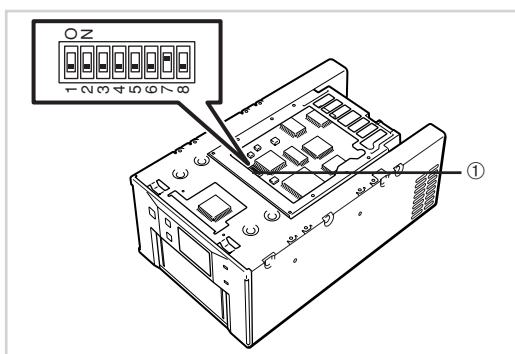
DDSデータカートリッジの状態を示すLED(→19ページ)。

## 製品背面



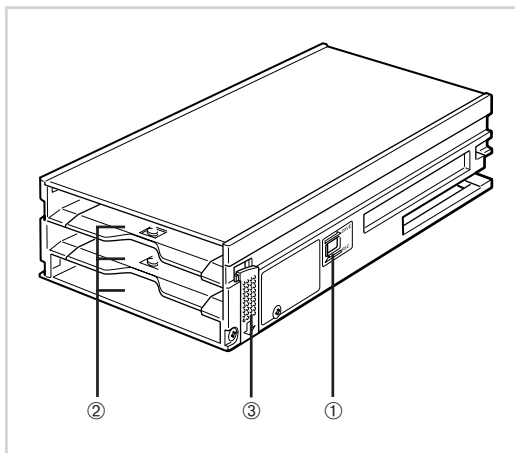
- ① 電源コネクタ  
電源中継ケーブルを接続するためのコネクタ(→9ページ)。
- ② ジャンパピン  
内蔵DAT集合型の設定をするピン(→4ページ)。
- ③ SCSIコネクタ  
本体の内蔵SCSIケーブルを接続する(→9ページ)。

## 製品底面



- ① DIPスイッチ  
内蔵DAT集合型の設定をするスイッチ(→6ページ)。  
※ 本スイッチは変更しないでご使用ください。

## マガジン



- ① ライトプロテクトプラグ  
セットしたDDSデータカートリッジへの書き込みを禁止/許可するスイッチ(→15ページ)。
- ② データカートリッジ挿入口  
DDSデータカートリッジを挿入するスロット(→11ページ)。
- ③ リリーススイッチ  
DDSデータカートリッジを取り出すときに押すスイッチ(→13ページ)。

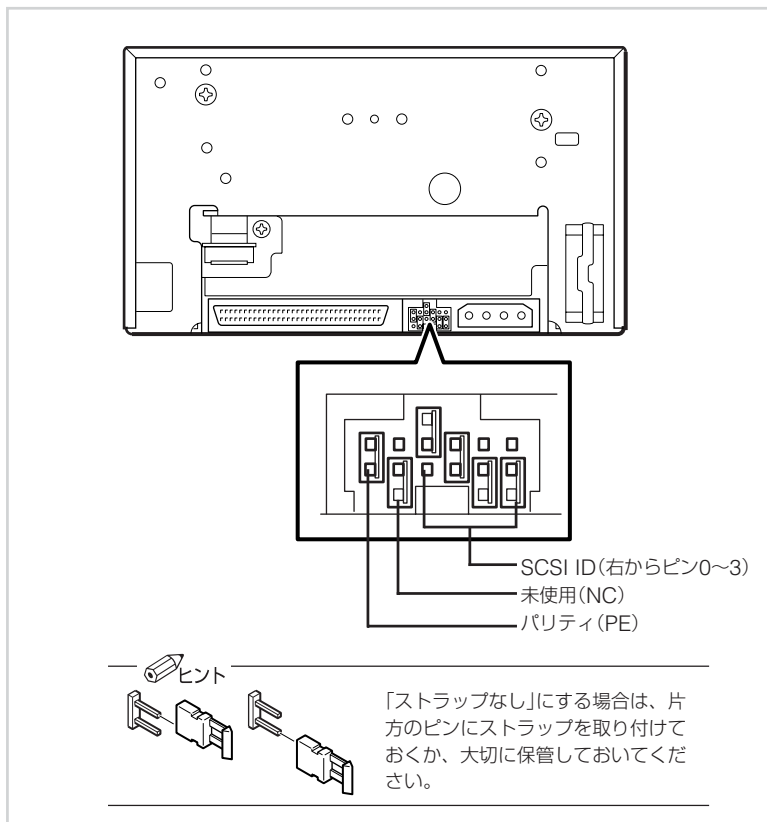
# セットアップ

本製品をExpress5800シリーズ製品などの「本体装置」に取り付けるまでの手順を説明します。

## 内蔵DAT集合型の設定 ～ジャンパピンを使った設定～

本製品の背面にあるジャンパピンでは次の設定を変更することができます。

- SCSI ID(工場出荷時の設定は「ID4」)
- パリティ機能(工場出荷時の設定は「有効」)



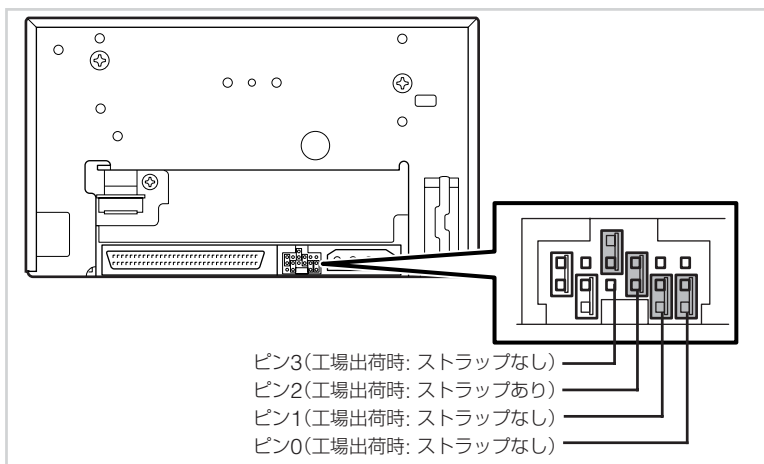
### ヒント

ここでの「ストラップあり」とは、2つのピンにストラップを取り付けた状態をさします。また、「ストラップなし」はストラップをピンに取り付けていないか、2つのピンのうち、どちらか一方のピンにのみ取り付けられている状態をさします。



## SCSI IDの設定

本製品が使用するSCSI IDを設定します。設定は背面にあるジャンパピンの「ピン0」～「ピン3」の4本のピンを使います。



### 重要

他のSCSI機器とSCSI IDが重複していないことを確認してください。

SCSI ID	ピン3	ピン2	ピン1	ピン0
0	×	×	×	×
1	×	×	×	○
2	×	×	○	×
3	×	×	○	○
4*1	×	○	×	×
5	×	○	×	○
6	×	○	○	×
7*2	×	○	○	○
8	○	×	×	×
9	○	×	×	○
10	○	×	○	×
11	○	×	○	○
12	○	○	×	×
13	○	○	×	○
14	○	○	○	×
15	○	○	○	○

○ ストラップあり

× ストラップなし

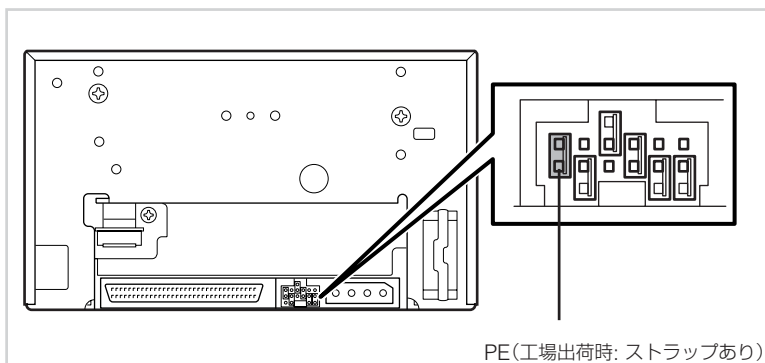
\*1 出荷時の設定。

\*2 SCSI IDをID7に設定しないでください。

## パリティ機能の設定

パリティ機能の設定を設定します。設定は背面にあるジャンパピンの一番左側のピンを使います。

ストラップありにすると、パリティ機能は「有効」になります(工場出荷時の設定)。ストラップなしにするとパリティ機能は「無効」になります。



重要

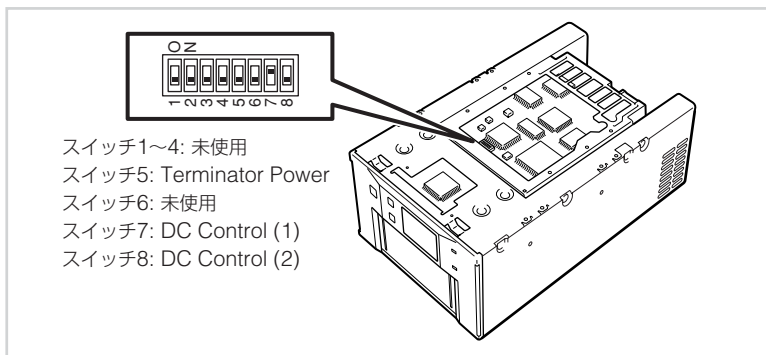
信頼性を向上させるために、「有効(ストラップあり)」ままで使用してください。

## 内蔵DAT集合型の設定 ~DIPスイッチを使った設定~

本製品の底面にあるDIPスイッチでは次の設定を行っています。

※本スイッチは変更しないでご使用ください。

- Terminator Power(ターミネータ電源供給)(工場出荷時の設定は「OFF」)



- DC Control (1)(データ圧縮設定)(工場出荷時の設定は「ON」)
- DC Control (2)(データ圧縮設定)(工場出荷時の設定は「OFF」)



重要

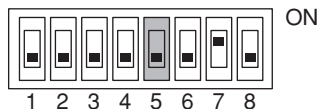
工場出荷時設定のままで使用してください。

## ターミネータ電源供給の設定 ～Terminator Power～

ターミネータ電源をSCSIバスに供給するか供給しないかを設定します。

設定はスイッチ5を使います。「ON」でターミネータ電源を供給する設定に、「OFF(工場出荷時設定)」で供給しない設定になります。

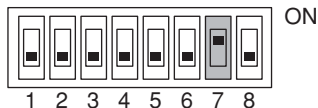
(本製品をN8541-28、N8141-28Aデバイス増設ユニットに実装し、電源連動機能を使用するためには、ターミネータ電源供給をOFFにしておく必要があります。)



## データ圧縮の設定 ～DC Control (1)～

本製品が持つデータ圧縮機能を有効にするか無効にするかを設定します。

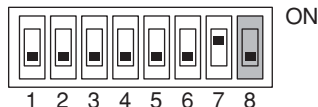
設定はスイッチ7を使います。「ON(工場出荷時の設定)」でデータ圧縮機能を有効にする設定に、「OFF」でデータ圧縮機能を無効にする設定になります。



## データ圧縮の設定 ～DC Control (2)～

バックアップソフトからデータ圧縮の制御を有効にするか無効にするかを設定します。

設定はスイッチ8を使います。「ON」でバックアップソフトからのデータ圧縮制御を無効にする設定に、「OFF(工場出荷時の設定)」でバックアップソフトからのデータ圧縮制御を有効にする設定になります。



## 本体装置への取り付け



本製品を取り付ける前に、必ずサーバ/ワークステーション等本体装置の電源プラグをコンセントから引き抜いてください。コンセントに差し込んだまま作業を行うと、感電するおそれがあります。

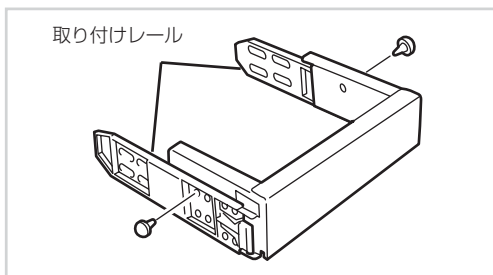
本製品を本体装置へ取り付けます。

以下の取り付け手順は一例です。実際の取り付けかたは本体装置によってこととなりますので、本体装置の取扱説明書を参照してください。

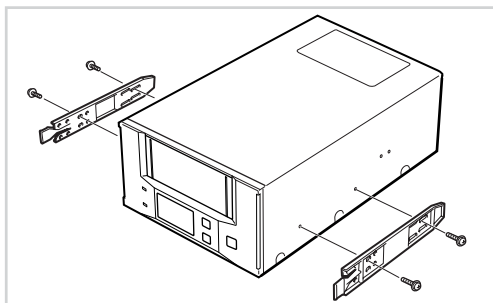
1. 本体装置の電源をOFFにして、電源コードをコンセントから抜く。
2. 本体装置のカバーを取り外す。
3. 本体装置の5.25インチデバイスベイのカバーを取り外す。

4. 本体装置の5.25インチデバイスベイの取り付けレールを取り外す。  
(取り付けレールを使用しない、もしくは片側のみ使用する本体装置もあります。その場合の取り付け方法は本体装置の取扱説明書を参照下さい。)

本体装置側の取り付けレールの例(本体装置によって取り付けレールが図と異なる場合があります。)

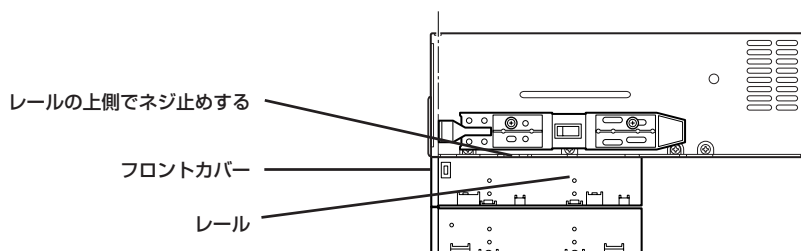


5. 本製品に4.で取り外した取り付けレールを取り付ける。

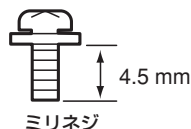


### 重要

- レールを使用する場合には、フロントカバーの面と本体標準設備のCD-ROMドライブなどのフロントカバーが平行になるようにレールの取り付け位置を調節してください。



- 必ず本製品に添付されているネジを使って固定してください。本製品に添付のネジは、ミリネジ(長さ6.0 mm、ワッシャより下の長さ4.5 mm)です。添付のネジより長いものを使用すると製品の故障の原因となります。



6. 本製品を本体装置の5.25インチデバイスベイのロットに差し込む。

「カチッ」という音が出て、ロックされます。

**⚠ 注意**



破損したケーブルを使用しない

ケーブルを接続する前にコネクタが破損していたり、コネクタピンが曲がっていたり、汚れたりしていないことを確認してください。破損や曲がっているコネクタおよび汚れたコネクタを使用するとショートにより火災を引き起こすおそれがあります。

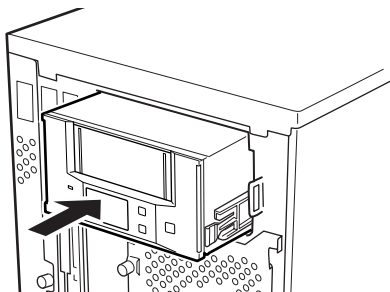
7. ケーブルを接続する。

電源中継ケーブルのコネクタを本体装置の電源ケーブルのコネクタに接続します。

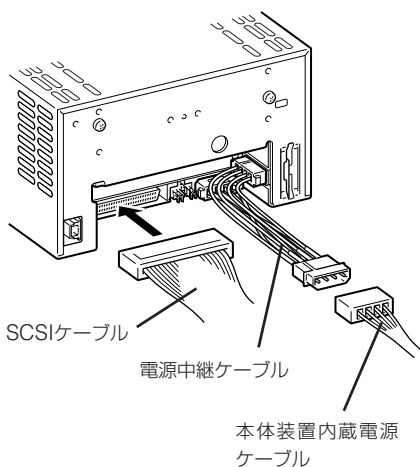
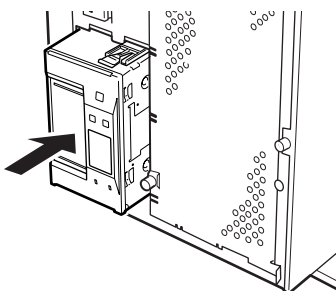
**🔑 重要**

- 本製品には、ターミネータ機能はありません。本製品がSCSI接続の最遠端になる場合は、SCSIケーブルの末端にターミネータを取り付けてください。
- 電源中継ケーブルの取り扱い時は以下の点に注意してください。
  - 挿抜をする時は、ケーブル部を持たずに必ずコネクタ部を持って行ってください。
  - 根元部分に曲げ等による無理な力が掛からないよう取り付けてください。

<横置きに取り付ける場合>



<縦置きに取り付ける場合>



8. 本体装置にカバーを取り付けて、電源コードをコンセントに接続する。
9. 本体装置の電源をONにする。
10. SCSIバスの設定が本体装置側でできる場合は、本製品について以下のように設定してください。
  - 転送レート: 40Mバイト/秒(最大、同期)
  - データバス幅: 16ビット(Ultra Wide SCSI、LVD/SE)
  - DISCONNECT/RECONNECT機能: 有効

詳しくは、本体装置に添付の説明書を参照してください。



本製品の液晶ディスプレイは本体装置への取り付け向きに合わせて表示方向を切り替えることができます(23ページ参照)。



同一バス上に接続されているデバイス数およびSCSIケーブル長により、下記の通り最大転送レートを設定してください。

SCSI	最大転送レート (Mバイト/s)	データバス幅 (bit)	最大ケーブル長(m) Single-ended (LVD*)	最大デバイス数 (SCSIホスト+ デバイス数)
Ultra Wide SCSI	40	16	3 (-)	4
Ultra Wide SCSI	40	16	1.5 (-)	8
Ultra Wide SCSI	40	16	- (3)	16
Fast Wide SCSI	20	16	3 (3)	16
Wide SCSI	10	16	6 (3)	8

\*SCSIホストおよび同一バス上の全デバイスがLVD対応の場合

## バックアップソフト使用のご注意

NEC のWeb 情報ページである8 番街(<http://www.express.nec.co.jp>)の「サポート情報」-「テクニカル情報(テクニカルガイド)」-「Express5800/100 シリーズテクニカルガイド」にありますバックアップ装置の<バックアップ装置対応ソフトウェアのWindows NT/2000>を確認してください。

問い合わせ先：webmaster@ace.comp.nec.co.jp

# 取り扱い

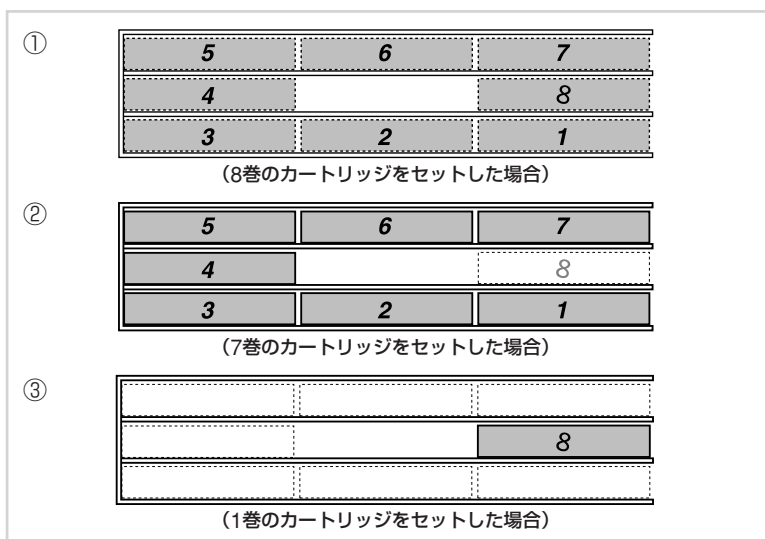
本製品の取り扱い方法を説明します。

## カートリッジのセット

カートリッジを添付のマガジンにセットします。

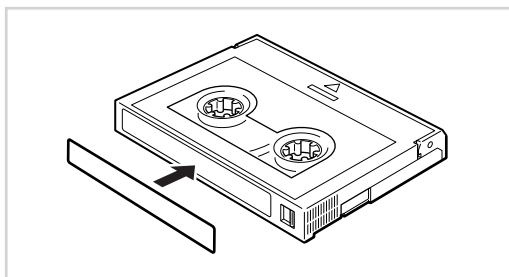
### 重要

- マガジンには最高8巻までカートリッジをセットすることができます。
- マガジン内にセットされたカートリッジのカートリッジ番号は次のように決められています。セットする順番を間違えないように注意してください。
- カートリッジのマガジンへのセットは、下記の3パターン(①~③)しかできません。下記以外のセットを行なったマガジンを実製品にセットしても排出されません。



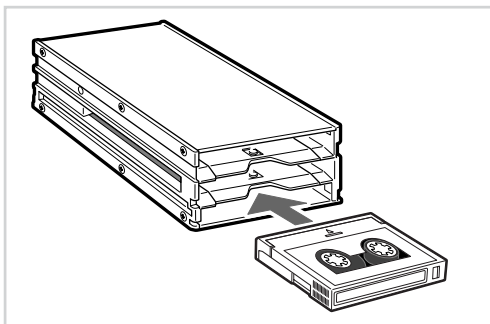
### 重要

ラベルは右図のカートリッジ背面以外の場所には貼らないでください。特に上面にラベルを貼り付けるとカートリッジの移動障害となるおそれがあります。



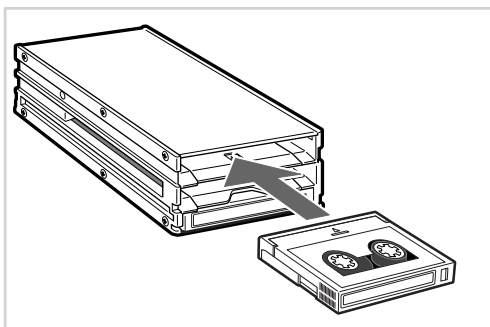
1. マガジンの下段のスロットにカートリッジを挿入する。

マガジンの下段のスロットにカートリッジを挿入します。最初に3番のカートリッジを挿入し、次に2番を挿入し、最後に1番のカートリッジを挿入します。



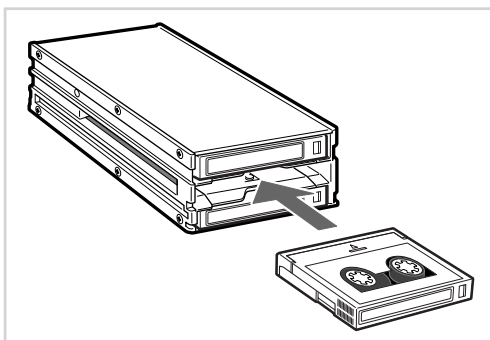
2. マガジンの上段のスロットにカートリッジを挿入する。

マガジンの上段のスロットにカートリッジを挿入します。最初に4番のカートリッジを挿入し、次に5番を挿入し、次に6番を挿入し、最後に7番のカートリッジを挿入します。



3. マガジンの中段のスロットにカートリッジを挿入する。

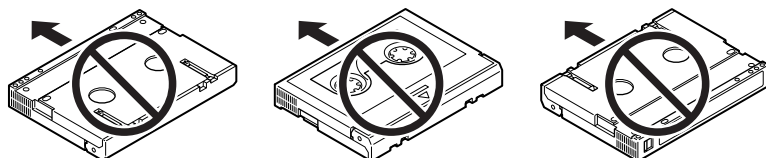
マガジンの中段のスロットにカートリッジ(1個)を挿入します。



 **重要**

- カートリッジは正しい向きで挿入してください。

<悪い例>





---

---

**重要**

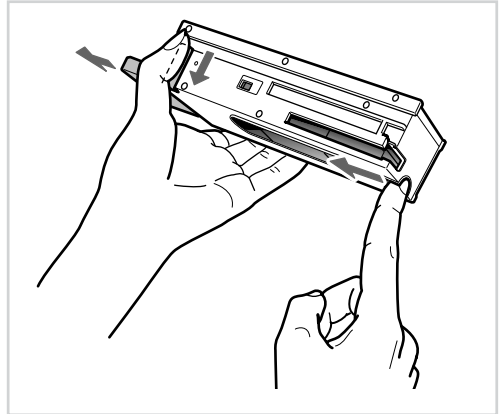
- 取り付け後、マガジンの挿入口を逆さにしてもDDSデータカートリッジが落ちてこないことを確認してください。
  - マガジンの挿入口からカートリッジが飛び出していないことを確認してください。
- 
- 

## カートリッジの取り出し

マガジンにセットしたカートリッジは次の手順に従って取り出してください。

1. マガジンのリリーススイッチ(3ページ参照)を押しながらマガジン後部の穴に指を入れ、カートリッジを前方に押し出す。

1巻目のカートリッジが挿入口から少し飛び出しますので、カートリッジの両端を持って、マガジンから取り出します。



---

---

**重要**

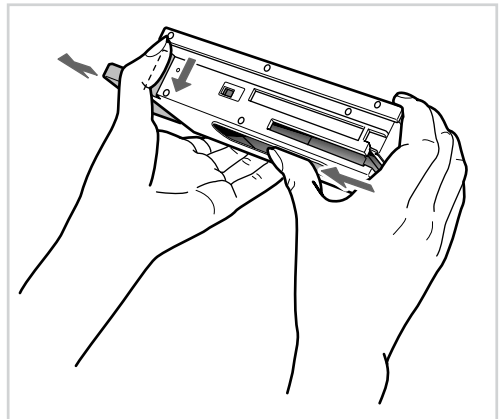
マガジンの挿入口を下に向けて取り出しをしないでください。カートリッジを落として破損するおそれがあります。

---

---

2. マガジンの底のスロット部分に親指を置き、カートリッジを押しながら前方にスライドさせる。

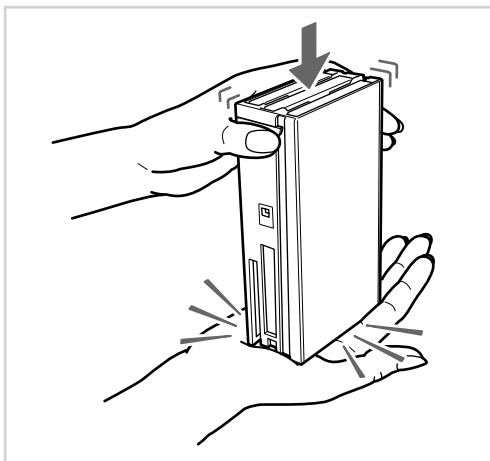
次のカートリッジが挿入口から少し飛び出しますので、カートリッジの両端を持って、マガジンから取り出します。



3. 手順1と2を繰り返して5巻のカートリッジを取り出す。

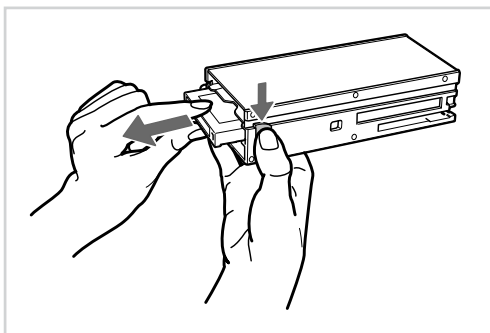
4. マガジンの開口部を上にして、反対側を手のひら(又は柔らかい物)に軽く当てる。

上段のカートリッジが下段に移動します。



5. 手順1と2を繰り返してマガジンの下段からカートリッジを取り出す。

6. 最後に、中段からカートリッジを取り出す。

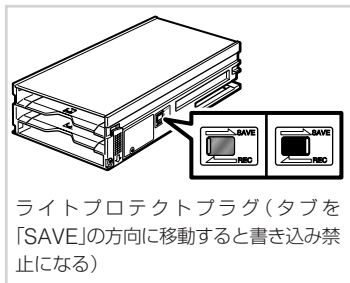


## マガジンのセット

カートリッジ(最高8巻)をセットしたマガジンを本製品にセットします。ある程度挿入するとマガジンは自動的に本製品内部にセットされ、TAPE LEDが点灯します。

### 重要

- マガジンを挿入すると次のように動作します。
  - 液晶ディスプレイにMagazine Loadingの表示が出たあと、マガジンのチェック機能がスタートします。
  - マガジンが書き込み禁止になっている場合は、液晶ディスプレイに書き込み禁止インジケータ(WP)が点灯します。
  - 全てのカートリッジがチェックされます。
  - 現在チェック中のカートリッジの番号が点滅します。



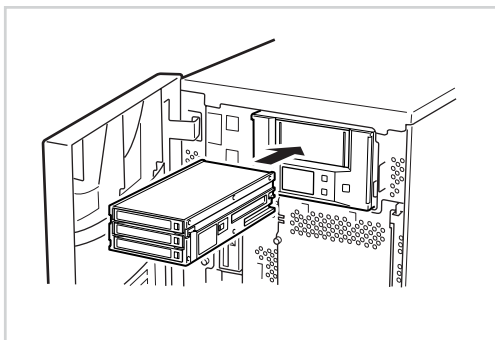
ライトプロテクトプラグ(タブを「SAVE」の方向に移動すると書き込み禁止になる)

- Auto load機能がONの場合は、マガジン内のカートリッジのチェック作業が全て終了すると、1巻目のカートリッジが自動的にロードされます。



1. 本体装置の電源をONにした後、本製品のBUSY LEDとTAPE LEDが消灯したことを確認する。
2. ロードするカートリッジを選択する。

すべてのカートリッジの番号が画面に表示されると、ロードするカートリッジの選択をご使用のコンピューターのソフトウェアまたは、本体のSELECT,ENTERボタンで選択できる状態となります。カートリッジがDDSドライブにロードされると、TEPE LEDが点灯します。



3. テープのデータが読み込まれる。

DDSドライブにロードされたカートリッジのデータが読み込まれます(または、書き込まれます)。この作業中は、BUSY LEDが点灯します。

## カートリッジの選択

コンピューターにインストールされているソフトウェアを使用して、マガジンにセットされているカートリッジを選ぶことができます。

また、本製品のSELECTボタンとENTERボタンを使用してカートリッジを選ぶこともできます。手順は次のとおりになります。

### 1. SELECTボタンを押す。

液晶ディスプレイにカートリッジの番号が表示されます。SELECTボタンを繰り返し押し、使用するカートリッジの番号を液晶ディスプレイに表示させます。

### 2. 使用するカートリッジの番号を確認してから、ENTERボタンを押す。

リード/ライトドライブにセットされているカートリッジがマガジンに戻され、選択したカートリッジがセットされます。

---

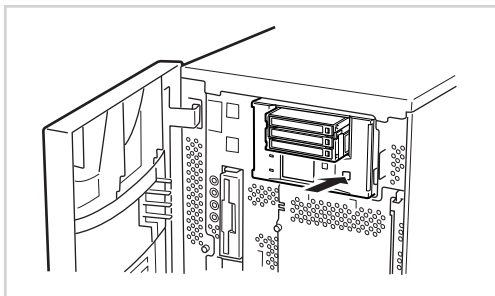
#### 重要

---

- マガジンを挿入したあと、カートリッジのチェック作業に約90秒かかります。この間は、SELECTボタンは使用することができません。また、SELECTボタンはReady LEDが消えているときも使用することができません。
  - Auto load機能がONの場合は、マガジン内のカートリッジのチェック作業が全て終了すると、最初のカートリッジが自動的にリード/ライトドライブにセットされます。
  - BUSY LEDが点滅中は、SELECTボタンとENTERボタンは使用することができません。
-

## マガジンの取り出し

マガジンを本製品から取り出すには、EJECTボタンを押してください。液晶ディスプレイに「Ejecting Magazine」と表示され、本製品内部のリード/ライトドライブにセットされていたカートリッジがマガジンに戻されてから、自動的にマガジンが本製品から排出されます。マガジンが排出されるまでに最大約2分かかります。



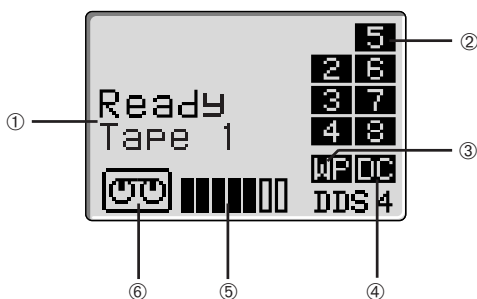
BUSY LEDが点滅中はEJECTボタンを使用することができません。

## データのリード/ライト

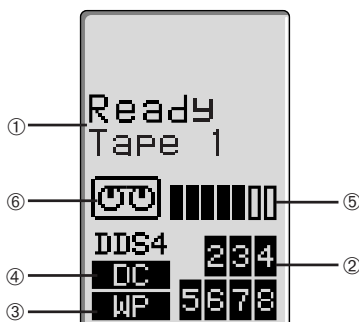
カートリッジからのデータの読み込み(リード)、または書き込み(ライト)の方法や書き込むデータの圧縮方法については、ソフトウェアに添付の説明書を参照してください。

## 液晶ディスプレイ

本製品前面にある液晶ディスプレイで本製品やDDSデータカートリッジの状態を確認できます。(下図に示すように本製品の取り付け向きに合わせて液晶ディスプレイの表示方向を切り替えることもできます。詳しくは、23ページを参照してください。)



横置き表示



縦置き表示

### ① メッセージエリア

本製品の状態を表示します。また、状況に応じて警告メッセージやエラーメッセージ(37ページ参照)が表示されます。

表示されるメッセージの言語を英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語のいずれかに変更することができます(25ページ参照)。

### ② カートリッジ番号インジケータ

マガジンにセットされているDDSカートリッジの状態を表示します。カートリッジの交換中は、該当するカートリッジ番号が点滅します。マガジンから本製品内のリード/ライトドライブにカートリッジがセットされると、該当するカートリッジの番号が消灯します。カートリッジがマガジンに戻されると再び点灯します。

### ③ ライトプロテクトインジケータ

DDSカートリッジ、またはマガジンが書き込み禁止になっているときに点灯します。書き込み禁止にするには、DDSカートリッジ、またはマガジンのライトプロテクトタブを使います。

### ④ データ圧縮インジケータ

本製品がデータ圧縮機能を使うことができるとき、またはデータ圧縮モードで動作中のときに点灯します。

### ⑤ テープポジションインジケータ

リード/ライトドライブにセットされているDDSデータカートリッジの残量の目安を表示します。



### ⑥ カートリッジインジケータ

DDSカートリッジがリード/ライトドライブにセットされると点灯し、テープの走行状態を示します。

DDSカートリッジがリード/ライトドライブから出し入れされている間は点滅します。

## LED表示

本製品前面にある2つのLEDは本製品やDDSデータカートリッジの状態を知らせます。

### BUSY LED(緑色)

SCSIインターフェースが有効になっているときに点灯します。リード/ライトドライブにセットされているDDSカートリッジのデータの読み取り中や書き込み中、サーチやテープの巻き戻し中は点滅します。

### TAPE LED(緑色)

DDSカートリッジがリード/ライトドライブにセットされると点灯します。DDSカートリッジがリード/ライトドライブから出し入れされている間は点滅します。

## 設定の変更

本製品前面にある液晶ディスプレイの表示をメニュー画面に切り替えることで、本製品のさまざまな設定を変更することができます。また、本製品の内部プログラム(ファームウェア)のバージョンや設定しているSCSI IDなどの確認もできます。

### メニュー画面への切替方法と操作方法

次の手順でメニュー画面を表示させます。

#### — ヒント —

メニュー画面に切り替えるときは、本製品からマガジンを取り出ししておくことをお勧めします。マガジンをセットされている場合は、液晶ディスプレイに「Ready」と表示されているときのみメニュー画面を表示させ、設定を変更したり、確認したりすることができます。ただし、「Language(言語)」の設定を変更するときは、マガジンを取り出ししておく必要があります。

1. 本体装置の電源がONになっていることを確認する。
2. SELECTボタンを5秒間押し続ける。

液晶ディスプレイの表示がメニュー画面に切り替わります。

3. SELECTボタンを押して、目的の項目にカーソル(▶)を合わせる。
4. ENTERボタンを押す。
5. 設定を変更する。

それぞれの画面での操作や機能については、この後の説明を参照してください。

▶ Version  
Auto Load  
Unload  
Contrast  
Orientation  
DR Mode  
Language

#### — ヒント —

10秒間何もしていないと、通常の画面に表示が戻ります。

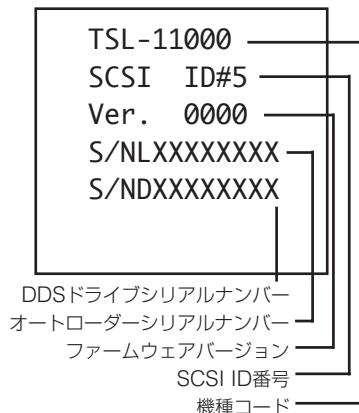


## Version ～設定状態の表示～

メニュー画面から「Version」を選択すると、右に示すサブメニューが表示されます。

この画面では、本製品の機種コード、設定しているSCSI ID番号、ファームウェアのバージョンが確認できます。

表示されている内容を確認後、EJECTボタンを押してください。メニュー画面に戻ります。



## Auto Load ～Auto Loadの設定～

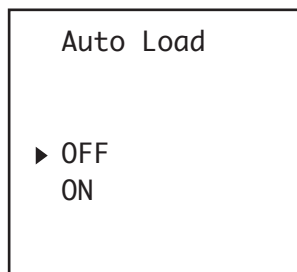
メニュー画面から「Auto Load」を選択すると、右に示すサブメニューが表示されます。

この画面では、マガジンの挿入後、1巻目のカートリッジの動作を指定します。

OFF: マガジン内のカートリッジのチェックのみで終了します。(出荷時設定)  
通常はこのモードで使用してください。

ON: マガジン内のカートリッジのチェック後、1巻目のカートリッジがリード/ライトドライブに自動的に挿入されます。

1. SELECTボタンを押して、選択する項目にカーソル(▶)を合わせます。  
選択を無効にしてメニュー画面に戻るには、EJECTボタンを押します。
2. ENTERボタンを押します。  
設定が確定してメニュー画面に戻ります。



## Unload ~Unloadの設定~

メニュー画面から「Unload」を選択すると、右に示すサブメニューが表示されます。

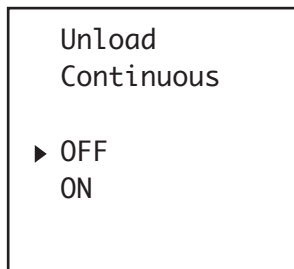
この画面では、リード/ライトドライブ内に最後のカートリッジの処理が終わったあとカートリッジの動作を指定します。

OFF: カートリッジはマガジンに戻され、コマンドが終了します。(出荷時設定)

通常はこのモードで使用してください。

ON: カートリッジはマガジンに戻され、1巻目のカートリッジがドライブに挿入されます。

1. SELECTボタンを押して、選択する項目にカーソル(▶)を合わせます。選択を無効にしてメニュー画面に戻るには、EJECTボタンを押します。
2. ENTERボタンを押します。設定が確定してメニュー画面に戻ります。



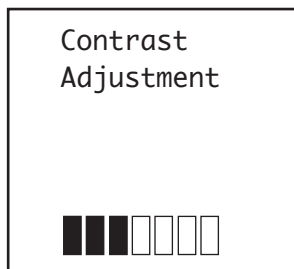
## Contrast ~明るさの調整~

メニュー画面から「Contrast」を選択すると、右に示すサブメニューが表示されます。

この画面では、液晶ディスプレイの明るさ(コントラスト)を調整することができます。

SELECTボタンを押すたびにインジケータの黒色が増えていき、画面が明るくなります。7つのインジケータがすべて黒になった状態でもう一度押すと、すべて白に切り替わります(一番暗い設定に戻ります)。

調整後、EJECTボタンを押してください。現在の設定を記憶してからメニュー画面に戻ります。



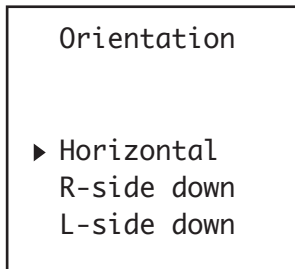
## Orientation ～表示の向きの設定～

メニュー画面から「Orientation」を選択すると、右に示すサブメニューが表示されます。

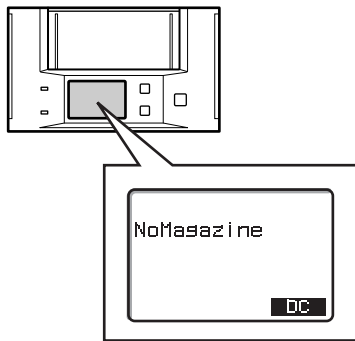
この画面では、本製品の取り付け方向に合わせて液晶ディスプレイの表示方向を設定することができます。



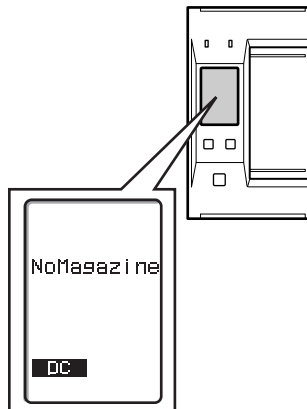
メニュー画面で設定しているときは、常に本製品上面が上になる方向に表示されます。



「Horizontal」は、本製品を横置きに取り付けた場合に設定します。



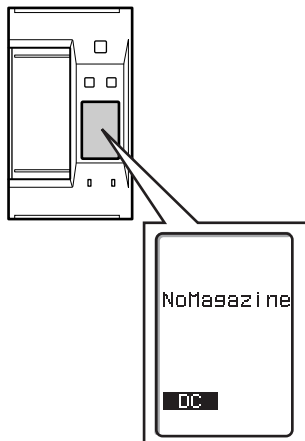
「R-side down」は、本製品の右側面を下にして縦置きに取り付けた場合に設定します。



「L-side down」は、本製品の左側面を下にして縦置きに取り付けた場合に設定します。

SELECTボタンを押して、目的の項目にカーソル(▶)を合わせてください。選択を無効にしてメニュー画面に戻るには、EJECTボタンを押してください。

選択後、ENTERボタンを押すと、設定内容が保存され、メニュー画面に戻ります。表示方向はメニュー画面から通常の画面に切り替わったときに有効になります。



## DR Mode ~DR Mode の設定~

メニュー画面から「DR Mode」を選択すると、右に示すサブメニューが表示されます。

OFF: DR Mode 設定無効  
ON: DR Mode 設定有効

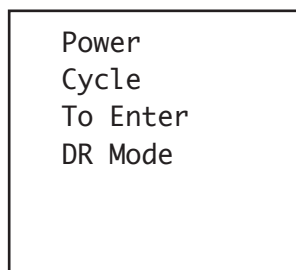
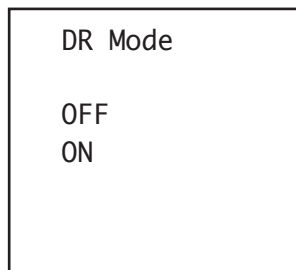
1. SELECTボタンを押して、選択する項目にカーソル(→)を合わせます。

選択を無効にしてメニュー画面に戻るには、EJECTボタンを押します。

2. ENTERボタンを押します。

画面は右のように表示されます。

3. 電源をON/OFFさせて、再起動します。
4. 再起動後、LCDの4段目に「DR Mode」と表示されていれば、DR Modeの設定が有効になります。



select/enterボタンを使い、DRメディアをDriveに挿入してください。再起動時に、DRメディアがDriveに挿入されていることを確認してください。

## Language ～表示言語の設定～

### 重要

「Language」の設定を変更する前にマガジンを本製品から取り出してください。マガジンがセットされているときは、「Language」の設定は変更できません。

メニュー画面から「Language」を選択すると、右に示すサブメニューが表示されます。

この画面では、液晶ディスプレイに表示されるメッセージの言語を設定することができます。

言語は「English(英語)」、「French(フランス語)」、「German(ドイツ語)」、「Spanish(スペイン語)」の中から選択できます。

SELECTボタンを押して、目的の言語にカーソル(▶)を合わせてください。選択を無効にしてメニュー画面に戻するには、EJECTボタンを押してください。

<p>Orientation</p> <p>▶ English French German Spanish</p>
---

選択後、ENTERボタンを押すと、設定内容が保存され、メニュー画面に戻ります。

### ヒント

メニュー画面では、常に英語で表示されます。

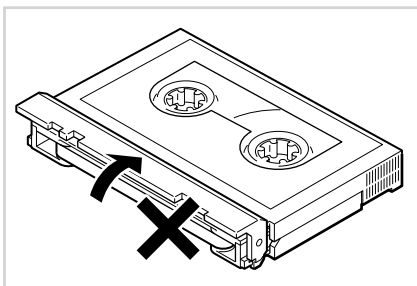
# クリーニング

## リード/ライトヘッドのクリーニング

本製品を良い状態に保つために、定期的にクリーニングをしてください。  
液晶ディスプレイのメッセージエリアに「CleanReq」というメッセージが表示されたら、マガジンにクリーニングカートリッジをセットして本製品内部のリード/ライトヘッドを清掃してください。  
クリーニングカートリッジをセットする位置は、どの番号でもかまいません。(11ページ参照)

### 重要

- 本製品のクリーニングには、付属のクリーニングカートリッジもしくは、弊社製の「4mmクリーニングカートリッジ(型番: EF-3237CN)」を使用してください。弊社製以外のクリーナーを使用すると故障の原因となることがあります。
- クリーニングカートリッジのテープ面を手で触ったり、テープを巻き戻して使用したりしないでください。
- クリーニングカートリッジは約50回使用することができます。クリーニング中にSTATUS LEDが点滅(等間隔)したときは、クリーニングカートリッジのテープが終わりまできたことを示します(クリーニングカートリッジを取り出して右側のリールにテープがすべて巻き取られていることもあわせて確認してください)。新しいクリーニングカートリッジを別途お買い求めください。



## クリーニング方法

### ● 番号8にクリーニングカートリッジをセットした場合

1. クリーニングカートリッジをセットしたマガジンを本製品に挿入します。
2. SELECTボタンを使用し数字の8を選びます。
3. 画面にSelect8と表示される。

Select8と表示されたら、ENTERボタンを押します。クリーニングカートリッジがリード/ライトドライブにセットされ、ヘッドのクリーニングがスタートします。クリーニングが終了するとクリーニングカートリッジが自動的にマガジンに戻り、マガジンが本製品から自動的に排出されます。



バックアップソフト上からクリーニングを行った場合にはマガジンは自動的に排出されません。

### ● 番号8以外にクリーニングカートリッジをセットした場合

1. クリーニングカートリッジをセットしたマガジンを本製品に挿入します。
2. SELECTボタンを使用しクリーニングカートリッジをセットした番号を選びます。
3. 画面に選択した番号が表示される。

Select番号が表示されたら、ENTERボタンを押します。クリーニングカートリッジがリード/ライトドライブにセットされ、ヘッドのクリーニングがスタートします。クリーニングが終了するとクリーニングカートリッジが自動的にマガジンに戻ります。(番号8以外にセットした場合にはマガジンは自動的に排出されません。)

## 本体のクリーニング

本製品の外観が汚れたときは、やわらかい布に水または洗剤を含ませて軽く拭いてください。

マガジンの汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。

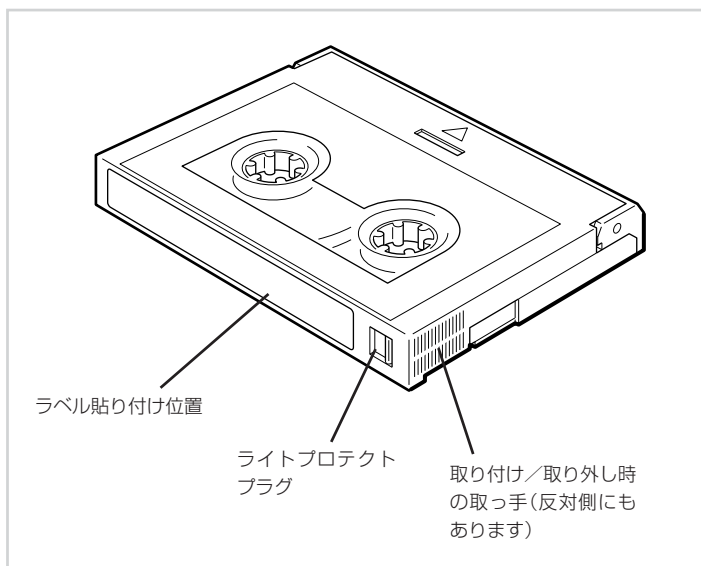


ベンジン、シンナーなど(揮発性のもの)の薬品で拭くと、変形や変色の原因となることがあります。また、殺虫剤をかけた場合も変形や変色の原因となることがあります。薬品が付着したら、早めに水を含ませた柔らかい布で拭き取ってください。

# DDSデータカートリッジ(EF-2422、EF-2417、EF-2409、EF-2407)について

DDSデータカートリッジの取り扱い方法について説明します。

## データカートリッジの各部の名称





## 使用・保管・運搬条件

### ■ 使用条件

温度	10～35℃
湿度	20～80%(ただし、湿球の最高温度は26℃とします。)
放置時間	使用および保管環境条件以外の環境に4mmデータカートリッジがさらされていた場合には、使用および保管環境条件以外の環境にさらされていた時間より長く(最大8時間)使用環境になじませてから使用してください。温度勾配は10℃/時間とします。

### ■ 保管条件

温度	5～32℃
湿度	20～80%(ただし、湿球の最高温度は26℃とします。)
保管状態	4mmデータカートリッジは、保護ケースに入れて、フタをして保管してください。置き方は水平、垂直どちらでもかまいません。

### ■ 運搬条件

温度	-30～35℃
湿度	20～80%(ただし、湿球の最高温度は26℃とします。)
温度勾配	10℃/時間
運搬状態	4mmデータカートリッジを保護ケースに収納し、ポリ袋に入れて密閉してください。輸送の場合には、さらに梱包箱に入れて4mmデータカートリッジに力が加わらないように包装してください。

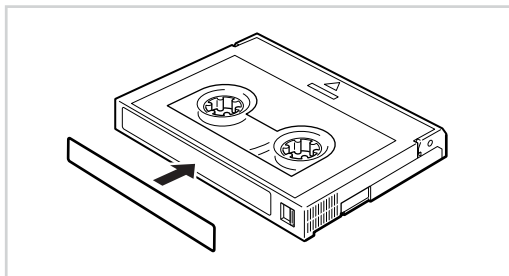
## ラベル

どの4mmデータカートリッジにどのデータをバックアップしているかなどがすぐにわかるように4mmデータカートリッジにラベルを貼り付けておくことをお勧めします。

### ラベル貼り付け位置

#### 重要

ラベルは右図のカートリッジ背面以外の場所には貼らないでください。特に上面にラベルを貼り付けるとカートリッジの移動障害となるおそれがあります。



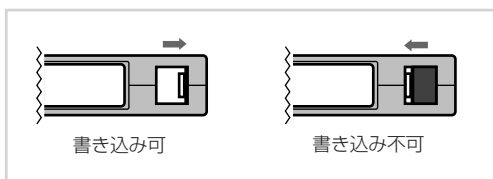
## ラベルへの記入上の注意事項

- 4mmデータカートリッジの内容を表示するために用いるラベルは簡単に取り換えることができ、取り外した後に粘着物が残らないようなものを使用してください。
- 内容の表示を変更するときは、消しゴムで消さず、必ずラベルを貼り替えてください(INDEXラベルは4mmデータカートリッジに添付されています)。
- ラベルを貼るときは、前項で指定された位置に確実に貼り、さらに取り換える場合は古いラベルを取り除いてから新しいラベルを貼ってください。
- 指定のINDEXラベル以外のものを使用する場合は、大きさが合ったものを使用してください。
- 添付のINDEXラベルには、使用開始年月日を記入できるようになっていますので必ず記入してください。4mmデータカートリッジの寿命をチェックする目安となります。

## ライトプロテクト

ライトプロテクトプラグを右図のように設定するとテープの内容が保護されま  
す。

一度書き込んだデータを消去したくない  
ときには、このプラグを右図のように設  
定してください。またライトプロテクト  
プラグを左下の図のように設定すると  
テープに書き込み可能となります。



# 取り扱い上の注意事項

## 使用上のご注意

### 使用する前

- 使用する4mmデータカートリッジが、外的損害を受けていたり、または変形したり、曲がっているときは、使用しないでください。
- 製品の使用温湿度条件以外で保管されていた4mmデータカートリッジを使用する場合は、使用温湿度条件以外にあった時間より長く(最大8時間)、使用環境に持ち込んでから使用してください。保管場所と使用場所の温度差が大きい場合は、一度に持ち込むのではなく、温度変化が1時間に10℃以下になるようにして、4mmデータカートリッジを使用場所の温度になじませてください。

### 製品への装着

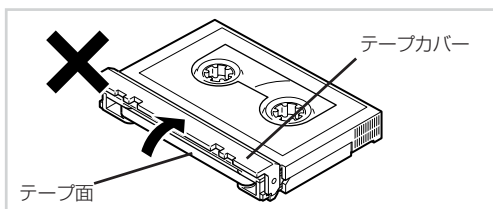
「4mmデータカートリッジのセット」での説明に従って4mmデータカートリッジをセットしてください。4mmデータカートリッジを取り出した後の保護ケースは、しっかりと閉じ、チリやホコリの少ない場所で保管してください。

### 使用した後

使用済みの4mmデータカートリッジは、必ず保護ケースに入れてチリやホコリの少ない場所で保管してください。置き方は水平、垂直どちらでもかまいません。

## 一般的注意事項

- テープに手を触れないでください。また、テープカバーを開閉しないでください。
- 磁気を発生するものを近づけないでください。
- 直射日光や暖房器具の近くには置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 飲食や喫煙をしながらの取り扱いは避けてください。また、シンナーやアルコールなどを付着させないように注意してください。
- 製品への挿入は、ていねいに行ってください。
- 4mmデータカートリッジはゴミやホコリを嫌います。



## 使用禁止基準

以下の項目に該当する場合は、新しい4mmデータカートリッジに取り替える必要があります。

- 落下させるなど強い衝撃を与え、4mmデータカートリッジが損傷を受けた場合。
- 清涼飲料、コーヒー、紅茶など液体、溶剤や金属粉、たばこの灰などで記録面が汚れている場合。

### 重要

この状態で4mmデータカートリッジを製品に挿入するとヘッドや製品を損傷したり、汚したりすることになり、製品の故障の原因となります。また、ヘッドの汚れやキズに気づかず、新しい4mmデータカートリッジを製品に挿入すると、4mmデータカートリッジを汚したり、傷つけたりして被害を広げることになります。

## 寿命

データカートリッジは書き込み/読み取り等を行う度に消耗しています。消耗したカートリッジを使用し続けることはエラーの原因となるだけでなく、書き込んだデータの破損にいたる場合がありますので、長い間使用しているテープは交換してください。

データカートリッジの寿命は使用環境によってもこととなりますが、以下を参考にしてください。

使用頻度	寿命の目安
1週間に1回	1年
1週間に3回	半年
毎日	3ヶ月

- 使用環境(温度・湿度・塵埃等)によって、目安より短くなることがあります。

## 重要なデータの保存について

重要なデータまたはプログラムなどを保存する場合には、万一の場合に備えて、正副2巻に保存することをお勧めします。

また、保存する際にはソフトウェアのベリファイ機能を利用し、保存したデータの確認も行うことをお勧めします。ベリファイ機能の利用方法については、各ソフトウェアの取扱説明書を参照してください。

こうしておけば、一方のテープがチリやホコリによるリードエラーを起こしても、もう一方のテープから復旧でき、大切なデータやプログラムの消失を防げます。

## データの3世代管理について

ディスク上のデータを保存する場合は、保存したデータの3世代管理をお勧めします。3世代管理は、テープ3巻(A、B、C)を使用して、ディスク上のデータを1日目はテープAに保存し、2日目はテープBに、3日目はテープCに保存していくものです。これにより、例えば一巻のテープCがリードエラーを起こした場合には、データBを使用してデータを復旧でき、また、テープBがリードエラーを起こした場合でもテープAのデータを使用して大切なデータを復旧することができます。

## データカートリッジの保管について

- 決められた保管状態を守り、保管場所を常に清潔にお保ちください。
- 書き込みを禁止にしておくことをお勧めします。
- 長期間にわたって保管する場合は、常にバックアップデータが復旧可能であることを確認するため、定期的にデータの読み出しを行うことをお勧めします。
- 万一の場合を想定してシステムから遠く離れた場所に保管しておくことをお勧めします。正副2巻のデータカートリッジがある場合は、正、副それぞれを異なる場所に保管しておくことさらに効果的です。

## バックアップと惨事復旧手順の制定

バックアップ方法を定めるときは、常に惨事復旧を想定したスケジュールを組んでください。バックアップ・リストアの正しい手順を制定することが、バックアップの運用の第一歩です。惨事復旧の手順を確立し、正しく運用されることを定期的に確認してください。

# 仕 様

本製品の仕様について記載します。

## ■ 性 能

記憶容量

160Gバイト(圧縮時 320Gバイト)EF-2422を  
8本使用時

96Gバイト(圧縮時 192Gバイト)EF-2417を  
8本使用時

32Gバイト(圧縮時 64Gバイト)EF-2409を  
8本使用時

- 圧縮時の値は圧縮効率が2倍である場合の値  
です。圧縮効率はデータパターンにより変化  
します。
- EF-2422、EF-2417、EF-2409を混在して  
セットすることもできます。

ビットエラーコード

$10^{-15}$ 以下

データ転送速度(TAPE)

2.36Mバイト/秒(非圧縮時)

バーストデータ転送速度(SCSI)

14Mバイト/秒(最大、非同期)

40Mバイト/秒(最大、同期)

マガジンイン/アウト時間

2.5秒(平均)

カートリッジ交換時間

50秒(平均)

巻き戻し時間

80秒未満

## ■ 環境条件

動作時

温度: 10℃~35℃

湿度: 20%~80%(結露なきこと)

最大湿球温度: 26℃

保管時

温度: -5℃~40℃

湿度: 10%~90%

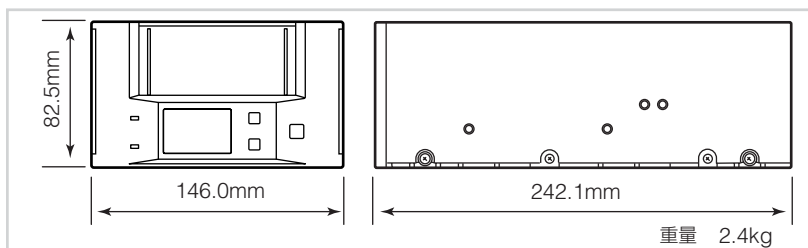
最大湿球温度: 26℃

## ■ 電源仕様

電圧	5V±5%	12V±10%
電流(Max.)	2.9A	1.6A

## ■ 寸法・重量

本体



マガジン

83mm(幅)×38.7mm(高さ)×168.5mm(奥行)

重量 215g

# 消耗品

ご購入の際は、お買い求めの販売店に連絡してください。

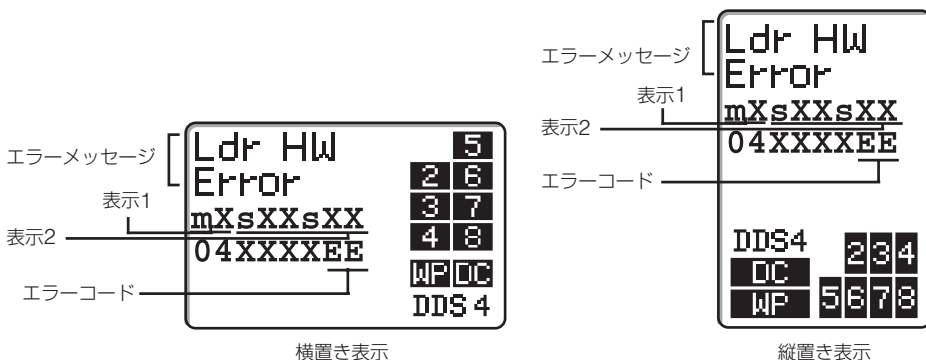
型番	名称
EF-3237CN	クリーニングカートリッジ
EF-3244M	DDSマガジン(8巻)



# エラーメッセージ一覧

本製品に何らかのエラーが起きると、液晶ディスプレイにエラーメッセージが表示されます（「Ldr HW Error」が「Drv HW Error」のいずれかが表示されます）。また、エラーメッセージの下には、エラーの内容を示すエラーコードが表示されます。

## ローダーエラーコード表



上記の図は、ローダーでハードウェアエラーが発生したことを示しています。次に表示1、表示2とその意味を示します。  
 表示1のmXは、エラーの発生に関連したモーターを表しています。  
 表示2のsXXsXXは、エラーの発生に関連したセンサーを表しています。

表示1	モーター
m1	MAGAZINE
m2	BOTTOM
m3	MIDDLE
m4	DRIVE
m5	ELEVATOR
m6	PUSH

表示2	センサー
s01	マガジンスライドセンサー1
s02	マガジンスライドセンサー2
s03	下段アーム・位置センサー1
s04	下段アーム・位置センサー2
s05	下段アーム・位置センサー1
s06	下段アーム・位置センサー2
s07	ドライブアーム・位置センサー1
s08	ドライブアーム・位置センサー2
s09	エレベータ・位置センサー1
s10	エレベータ・位置センサー2
s11	トレーアーム：位置センサー1
s12	トレーアーム：位置センサー2
s13	トレーカセット検出センサー1
s14	トレーカセット検出センサー2
s15	マガジンカセット検出センサー
s16	マガジンWPセンサー
s17	マガジン検出センサー
s18	ドアセンサー

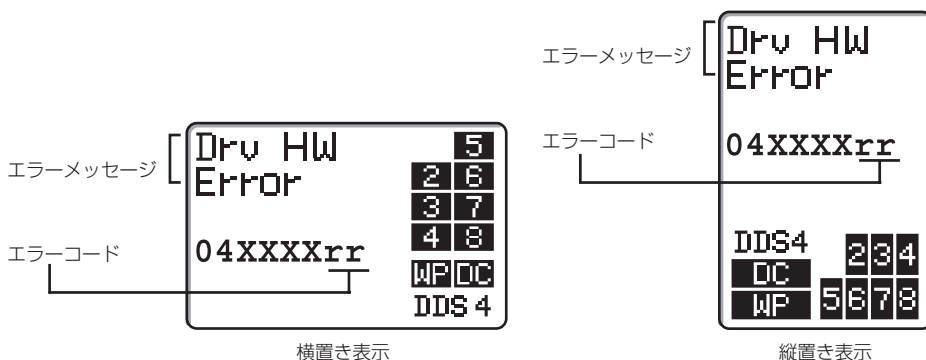
次にエラーコードとその意味を示します。

エラーコードの行の「04」は、ハードウェアエラーを表しています。

「XXXX」は、ファームウェアデバック用の内部コードです。

エラーコード	意味
10	マガジンロード・エラー
11	マガジンロード・モーター逆転時エラー
12	マガジンロード・モーター正転時エラー
20	マガジンイジェクト・エラー
21	マガジンイジェクト・モーター逆転時エラー
22	マガジンイジェクト・モーター正転時エラー
30	マガジン押し出し・エラー
31	マガジン押し出し・モーター逆転時エラー
32	マガジン押し出し・モーター正転時エラー
40	下段押し出し・エラー
41	下段押し出し・モーター逆転時エラー
42	下段押し出し・モーター正転時エラー
50	中段押し出し・エラー
51	中段押し出し・モーター逆転時エラー
52	中段押し出し・モーター正転時エラー
60	ドライブ押し出し・エラー
61	ドライブ押し出し・モーター逆転時エラー
62	ドライブ押し出し・モーター正転時エラー
70	エレベータ・エラー
71	エレベータ・下降時エラー
72	エレベータ・上昇時エラー
80	トレー押し出し・エラー
81	トレー押し出し・モーター逆転時エラー
82	トレー押し出し・モーター正転時エラー
c0	下段押し出し時カセットなし
c1	ドライブ段押し出し時カセットなし
c2	中段押し出し時カセットなし
c3	ドライブ段押し出し時カセットなし
c5	ドライブ段にあるカセットが誤挿入されている
c6	中段にあるカセットが誤挿入されている
d0	初期化時アーム動作不能
d1	イジェクトリクエスト
d2	初期化時エレベータ動作不能

# ドライブエラーコード表



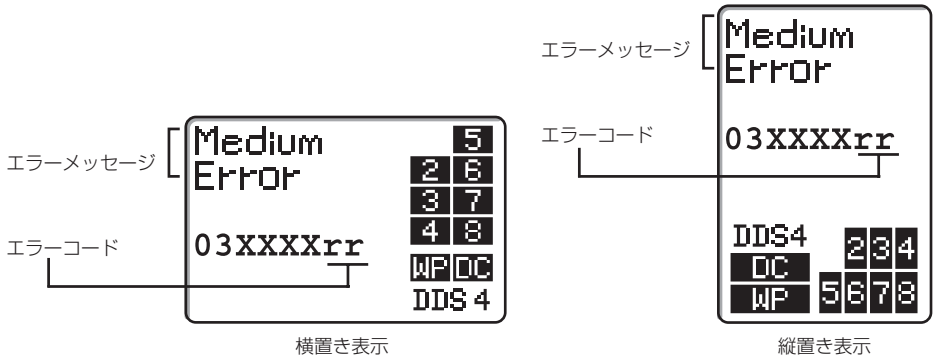
上記の図は、ドライブでハードウェアエラーが発生したことを示しています。次にエラーコードとその意味を示します。

エラーコードの行の「XXXX」は、ASC、ASCQを表しています。

エラーコード	意味
5C	Write時にメカreadyにならず
5D	Write中にフレームオーバーを検出
5E	Write中にECCオーバーを検出
67	ADAフレームオーバー発生
68	ECCフレームオーバー発生
6B	内部バスのコマンド異常
6C	内部バスのパラメータ異常
6D	内部バスのプロトコル異常
6E	内部バスのデータ異常
6F	内部バスのコマンドタイムアウト
70	メカ・テープなどの動作が基準時間内に完了せず
73	Write開始時にドラムの回転位相が同期せず
75	自己診断テストでエラー検出
77	内部コマンドでタイムアウト検出
78	DMA Parity Error (FSC)
79	DMA Parity Error (IBC)
7A	DMA Parity Error (DCC)
7B	DMA Parity Error (TFC)
7C	DRAM Parity Error (IBC)
7D	DRAM Parity Error (TFC)
80	Controlモーターがタイムアウト

エラーコード	意味
83	キャプスタンタイムアウト
84	Drumタイムアウト
85	複合コマンドタイムアウト
86	エンコーダ値の異常
87	メカ位置が不定
88	メカ位置が変化せず
89	メカ位置が変化した
8F	12V電源異常
92	リール回転立ち上がりが遅い
93	T側リールカウントで境界値を検出
94	T側リールカウントで異常値を検出
96	テープ弛み取りに失敗
97	テープ弛み取りに失敗
A0	Write中にDrumスピードが遅くなった
A1	Write中にDrumスピードが速くなった
A2	Drum回転立ち上がりが遅い
A3	Drumの回転位相がロックしない
A5	Drumの回転を検出せず
B0	Write中にcapstanスピードが遅くなった
B1	Write中にcapstanスピードが速くなった
B2	Write中にcapstanスピードが遅くなった
B3	Write中にcapstanスピードが速くなった
B4	Capstan回転立ち上がりが遅い
B5	Capstanの回転を検出せず
E9	DMAエラーを検出

# メディアエラーコード表



上記の図は、ドライブでメディアエラーが発生したことを示しています。  
次にエラーコードとその意味を示します。  
エラーコードの行の「XXXX」は、ASC、ASCQを表しています。

エラーコード	意味
0A	Readで無効なフォーマットを検出
31	EOMを検出
32	テープの無記録部分を検出
33	異常なテープフォーマットを検出
34	サブコード情報が不確定
35	ECCで訂正不可能なデータを検出
36	システムエリアの位置が不確定
37	BOMを検出
3A	Read中にフレームオーバーを検出
3B	システムエリアの検索でタイムアウト
40	Read中にターゲットGroupが見つからず
44	Space中に目的地へ到達できず
50	アペンドWriteできず
51	Write中にリライト多発
52	システムエリア更新でリライト多発
53	テープのフォーマットに失敗
55	アペンドWriteでタイムアウト検出
56	アペンドWriteでAFC読めず
57	アペンドWriteで追記点を超過
58	アペンドWriteでC2エラー発生
59	アペンドWriteでATFロックせず

エラーコード	意味
5A	アペンドWriteでサブコード不一致
5B	テープのフォーマットでタイムアウト検出
72	Write中にヘッドクログを検出
81	T-Reelタイムアウト
82	S-Reelタイムアウト
8B	T側とS側のエンドセンサーを同時に検出
90	S側リールの回転速度低下
91	T側リールの回転速度低下
C0	異常なBATを検出
C1	異常なフォーマットを検出
C2	フォーマット上の不連続を検出
C9	不正な圧縮データを検出
CB	Spaceのターゲットを検出せず
CC	予期せぬEORを検出
CD	不正なSkipカウントを検出
CE	DCLZエラーを検出
CF	不正なDMA終了を検出

# 運用状況お客様記入シート

本製品を保守・管理する際に必要な情報を記録しておくメモ欄です。

項目	記入欄
本体装置モデル名	
オペレーティングシステム(OS) (名称、バージョン、サービス パック/パッチの適用状況)	
ソフトウェア (名称、バージョン、サービス パック/パッチの適用状況)	
SCSIバス構成 (SCSI ID/同一バス上のデバイ ス)装置設置環境	
装置設置環境 (温度、湿度、ホコリの状況な ど)	
カートリッジ種類 (メーカー名、EF型番)	
クリーニングカートリッジ種類 (メーカー名、EF型番)	
クリーニングカートリッジ使 用状況(クリーニング周期、使 用回数や使用開始月の管理方 法など)	
カートリッジ使用状況 (使用回数や使用開始月の管理 方法など)	
カートリッジの管理状況	



# トラブルシューティングチェックリスト

本製品が思うように動作しない場合は、修理に出す前に以下のチェックリストの内容に従って、本製品をチェックしてください。リストにある症状に当てはまる項目があるときは、処置に従ってください。

項番	症状	内蔵型 外付型	処置
1	<input type="checkbox"/> ドライブの電源が入らない。 <input type="checkbox"/> LEDが点灯しない。	内蔵型	<input type="checkbox"/> ドライブにDCケーブルが正しく接続されていることを確認してください。 <input type="checkbox"/> 集合型ドライブでは電源コネクタを2カ所持っているものがあります(専用のDCケーブルが必要なドライブがあります)。取扱説明書を確認して正しく接続されていることを確認してください。 <input type="checkbox"/> DCケーブルの接触不良が無いが、挿抜して確認してください。
		外付型	<input type="checkbox"/> ドライブにACケーブルが正しく接続されていることを確認してください。 <input type="checkbox"/> ACケーブルが正しくコンセントに接続されていることを確認してください。
	<input type="checkbox"/> システム起動時にドライブが正しく認識されない。	内蔵型 外付型	<input type="checkbox"/> ドライブにSCSIケーブルが正しく接続されていることを確認してください。 <input type="checkbox"/> SCSIケーブルが正しくSCSI I/F(SCSIボードのコネクタ、MBのコネクタなど)に接続されていることを確認してください。 <input type="checkbox"/> 同一SCSIバス上の他のドライブとSCSI IDが同じではないか確認してください。 → 同じSCSI IDのドライブがある場合、どちらかのIDを使われていない番号へ変更してください("7"はホスト側が使用しているため、割り当てないでください)。

項番	症状	内蔵型 外付型	処置
2	<input type="checkbox"/> システム起動時にドライブが正しく認識されない。	内蔵型 外付型	<input type="checkbox"/> 終端抵抗が正しく接続・設定されていることを確認してください。 → 終端抵抗はSCSIバスの両最遠端に接続されている必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最遠端がケーブル(コネクタ)の場合、終端コネクタが接続されていることを確認してください。</li> <li>・ 最遠端が内蔵型ドライブの場合、ドライブの終端抵抗設定がONとなっていることを確認してください。</li> <li>・ 最遠端が外付型ドライブの場合、終端コネクタが接続されていることを確認してください。</li> <li>・ 最遠端がSCSIボード(MB)の場合、SCSI BIOSなどで正しく設定されていることを確認してください(それぞれの取扱説明書を参照してください)。</li> <li>・ 最遠端でないドライブの終端抵抗がONとなっていないことを確認してください。</li> </ul> <input type="checkbox"/> PINタイプのSCSIコネクタの場合、PIN折れが発生していないか確認してください(内蔵型50pinのドライブ側、内蔵/外付68pinのケーブル側、外付型50pin [PINタイプ]のケーブル側など)。 → 折れたPINを元に戻して使わずに、ドライブあるいはケーブルを交換してください。 <input type="checkbox"/> SCSI BIOSの設定が正しいか確認してください(取扱説明書に設定方法がかかれている場合は参照してください。SCSI BIOSが変更できないものもあります)。 <input type="checkbox"/> システム構成上、正しい位置に接続されているか確認してください。
3	<input type="checkbox"/> OS起動後にドライブが正しく認識されない。(システム起動時は正しく認識されていた。)	内蔵型 外付型	<input type="checkbox"/> デバイスドライバが正しくインストールされているか確認してください。 → 自動的にインストールされる場合と、手動でインストールする必要がある場合があります。またデバイスドライバが製品に添付されている場合があります。取扱説明書を参照してください。 <input type="checkbox"/> デバイスドライバが正しく起動されているか確認してください。

項番	症状	内蔵型 外付型	処置
4	<input type="checkbox"/> 正しくテープを認識しない。 <input type="checkbox"/> 正しくバックアップができない。 (バックアップソフトはドライブを正しく認識している。)	内蔵型 外付型	<input type="checkbox"/> クリーニングテープでヘッドのクリーニングを行ってください。 <input type="checkbox"/> データテープを新品と交換してください。 <input type="checkbox"/> 正しいデータテープを使用しているか確認してください。 → ・ DDS2ドライブにDDS3テープを使用していないか、などのドライブとテープの組み合わせは正しいか確認してください。 ・ 動作保証のされたテープを使用しているか確認してください。 ・ 寿命に達したテープを使用していないか確認してください。 ・ エラーの発生していたテープを使用していないか確認してください。 <input type="checkbox"/> SCSIケーブル、コネクタ、終端抵抗等の接続に問題がある可能性があります。 → もう1度接続を確認してください。 <input type="checkbox"/> 温度・湿度の異なる環境から持ち込んだドライブは、使用環境に十分馴染んでいない場合があります。環境の馴染ませを行ってから使用してください。 <input type="checkbox"/> 空調管理の行われていない環境でシステム起動直後にバックアップを行うと、ドライブが環境に十分馴染んでいない場合があります。環境に十分馴染んでからバックアップするように運用の変更を行ってください(夜間のシステム起動・バックアップ開始などで発生しやすい)。
5	<input type="checkbox"/> 正しくバックアップができない。 (バックアップソフトがドライブを正しく認識していない。)	内蔵型 外付型	<input type="checkbox"/> バックアップソフトが正しくインストールされているか確認してください。 <input type="checkbox"/> SCSIバス上の他のデバイスとIDが重複していないか確認してください。 <input type="checkbox"/> ソフトウェア同士の競合が発生していないか確認してください。 → 同時に使用できないデバイスドライブが組み込まれている場合に片方のドライブを外す必要がある場合があります。詳しくはソフトウェア側の説明書を参照してください。 <input type="checkbox"/> SCSIケーブル、コネクタ、終端抵抗等の接続に問題がある可能性があります。 → もう1度接続を確認してください。

項番	症状	内蔵型 外付型	処置
6	<input type="checkbox"/> 正しくバックアップができない。 (LEDが点滅している、LCDにエラーを表示している。)	内蔵型 外付型	<input type="checkbox"/> 取扱説明書にLED・LCDの表示に関する説明がある場合は、それを参照してください。 → ・ クリーニング要求の出ている場合は、クリーニング実施後にバックアップを行い、再発するようであればデータテープの交換を行ってください。 ・ エラー表示(ERRxxなど)の出ている場合は、ドライブに何らかの不具合を生じていることが考えられるため、ドライブの交換を行ってください。
7	<input type="checkbox"/> テープが取り出せない。 (データテープの場合)	内蔵型 外付型	<input type="checkbox"/> バックアップソフトで自動排出を設定したにも関わらず排出されない場合は、正しくバックアップができていないことが考えられます。 → 項番4～6を参照してください。 <input type="checkbox"/> ドライブのEJECTキーを押下してもテープが排出されない場合は、バックアップソフトによるソフトウェア的なロックのはたらいていることが考えられます。 → ・ ソフトウェアを終了させてください。 ・ システムを再起動してください。 ・ 電源のOFF/ONを行ってください。 <input type="checkbox"/> ドライブが何らかの不具合を検出して排出させないようにしていることが考えられます。 → ・ 強制排出の手順に従い、手動で取り出すことをお勧めします。 ・ システムを停止できないため手動取り出しが行えない場合、EJECTキーを一定時間(5秒または10秒)以上押下し続けることで強制排出されるドライブがありますので、これを行ってください。 ・ システムを再起動してください。 ・ 電源のOFF/ONを行ってください。 <input type="checkbox"/> テープがドライブ内部で絡まっていること(テープジャム)が考えられます。 → ・ 強制排出の手順に従い、手動で取り出してください。 ・ テープジャムを起こしたドライブは、内部のヘッド・ドラム・各ガイドピンなどを傷めていることが考えられるため、ドライブ交換を行ってください。

項番	症状	内蔵型 外付型	処置
8	<input type="checkbox"/> テープが取り出せない。 (クリーニングテープの場合)	内蔵型 外付型	<input type="checkbox"/> 使い切ったクリーニングテープを挿入した場合、あるいはクリーニング中に使い切ったため正常にクリーニングが終了しなかった場合に、それを知らせるためにクリーニングテープが排出されないドライブがあります。 → EJECTキーを押下してクリーニングテープを取り出し、新しいクリーニングテープでクリーニングを再度行ってください。 <input type="checkbox"/> テープがドライブ内部で絡まっていること(テープジャム)が考えられます。 → ・ 強制排出の手順に従い、手動で取り出してください。 ・ テープジャムを起こしたドライブは、内部のヘッド・ドラム・各ガイドピンなどを傷めていることが考えられるため、ドライブ交換を行ってください。
9	<input type="checkbox"/> マガジンが排出されない。 (集合型の場合)	内蔵型 外付型	<input type="checkbox"/> BUSY LEDが点滅していないか確認してください。 → テープの読み取りに時間がかかっている可能性があります。テープの読み取りが終わるまでお待ちください。読み取りエラーが発生した場合はテープを交換してください。
10	<input type="checkbox"/> テープが排出される。 (データテープの場合)	内蔵型 外付型	<input type="checkbox"/> 正しいデータテープを使用しているか確認してください。 → ・ DDS2ドライブにDDS3テープを使用していないか、などのドライブとテープの組み合わせは正しいか確認してください。 ・ 動作保証のされたテープを使用しているか確認してください。 ・ 寿命に達したテープを使用していないか確認してください。 ・ エラーの発生していたテープを使用していないか確認してください。 <input type="checkbox"/> ヘッドが汚れている可能性があります。 → ヘッドが汚れていた場合、書き込み／読み取り時に失敗しテープを排出する場合があります。クリーニングを行ってください。
11	<input type="checkbox"/> テープが排出される。 (クリーニングテープの場合)	内蔵型 外付型	<input type="checkbox"/> クリーニングテープを使い切っている可能性があります。 → 新しいクリーニングテープに交換してください。





---

# NEC

N8151-39  
内蔵DAT集合型取扱説明書

2001年10月初版  
2004年9月第7版

日本電気株式会社  
東京都港区芝五丁目7番1号  
TEL(03)3454-1111(大代表)

乱丁・落丁はお取り替えます。

© NEC Corporation 2001  
日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行う  
ことはできません。  
本書の内容は予告なく変更することがあります。

Printed in Japan

このマニュアルは再生紙を使用しています。